

資料編

連結情報

事業の概況(連結)	2
連結財務諸表	4
連結貸借対照表	4
連結損益計算書	5
連結株主資本等変動計算書	6
連結キャッシュ・フロー計算書	7
連結財務諸表の作成方針	8
連結注記表	8
セグメント情報	12
関連当事者取引	12
リスク管理債権、金融再生法開示債権	13

単体情報

事業の概況(単体)	14
財務諸表	15
貸借対照表	15
損益計算書	16
株主資本等変動計算書	17
個別注記表	18
損益の状況	21
業務の状況	24
預金に関する指標	24
貸出金等に関する指標	25
有価証券及び金銭の信託等の時価等関係	28
デリバティブ取引関係	31
有価証券に関する指標	33
リスク管理債権、金融再生法開示債権	35

自己資本比率規制の第3の柱(市場規律)に基づく開示

自己資本の構成に関する開示事項	36	定量的な開示事項	43
定性的な開示事項	38		

報酬等に関する開示事項

報酬等に関する開示事項	60
-------------	----

会社情報

当行の概要	63	中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組の状況	68
組織図	65		
当行グループの概要	67		

開示規定項目一覧表

開示規定項目一覧表	70
-----------	----

事業の概況(連結)

■主要な経営指標(連結)

(単位：百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
連結経常収益	70,591	79,720	87,720	95,513	103,386
連結経常利益	19,083	23,660	27,329	27,275	27,581
親会社株主に帰属する当期純利益	13,526	16,433	19,039	18,960	19,337
連結包括利益	13,297	16,707	19,170	18,144	21,269
連結純資産額	93,660	110,367	129,538	147,682	186,790
連結総資産額	1,876,770	2,353,510	2,997,205	3,851,733	6,486,841
連結自己資本比率(国内基準)	11.15%	11.03%	11.00%	10.60%	11.66%

(注) 1. 当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 連結自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を採用しております。

■損益の状況

経常収益については、資金運用収益が、住宅ローン及び提携ローン等の残高増加に加え、楽天カード株式会社のクレジット債権等を裏付資産とする信託受益権等の運用資産を積み上げたものの、貸出金利息と預け金利息が減少し、減収となりました。

一方、役務取引等収益は、新規口座数の増加等に伴う受取為替手数料や口座振替手数料の増加に加え、デビットカード等のカード関連手数料の増加により、増収となりました。その他業務収益は、海外送金及び店頭外国為替証拠金取引にかかる収益が伸長した一方、外貨預金等の収益が低迷し、減収となりました。これらの結果として、経常収益は1,033億86百万円となりました。

一方、経常費用については、資金調達費用が、預金残高の伸長に伴い増加しました。役務取引等費用は決済件数の増加に伴う支払為替手数料及びATM支払手数料の増加により、増加しました。営業経費は、経費削減に努めたものの、業容拡大に加え、マーケティング費用の増加等により、増加しました。これらを受けて、経常費用は758億4百万円となりました。

以上の結果、経常利益は275億81百万円となり、税金等調整前当期純利益は272億10百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は193億37百万円となりました。

■財政状態

2020年度末における預金残高合計は、顧客口座数の順調な伸長や楽天証券株式会社との口座連携（マネーブリッジ）に伴う顧客数の増加により5兆5,459億47百万円となり、負債の部の合計額は6兆3,000億50百万円となりました。

資産の状況は、有価証券が1,075億4百万円、買入金銭債権が、楽天カード株式会社のクレジット債権等を裏付資産とする信託受益権の購入等により1兆5,290億40百万円、貸出金は、住宅ローン及び提携ローン等の堅調な増加により、1兆8,956億56百万円となりました。現金預け金は、2兆6,829億72百万円となりました。以上の結果、資産の部合計は、6兆4,868億41百万円となりました。

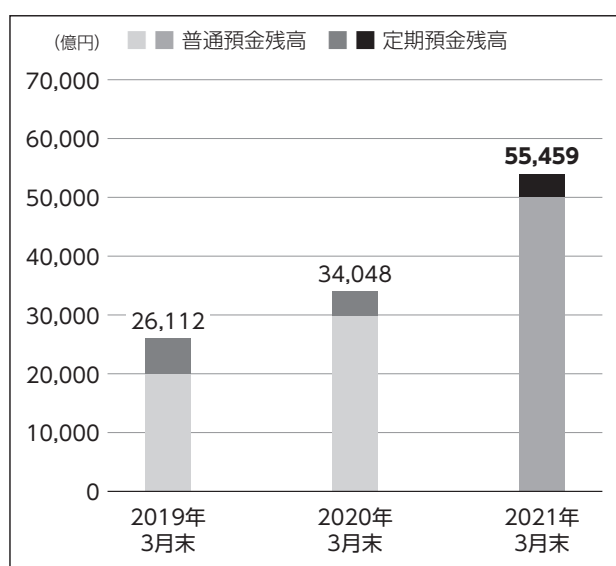
また、純資産の状況については、親会社株主に帰属する当期純利益の計上により、利益剰余金が1,389億82百万円となったことから、純資産の部合計は、1,867億90百万円となりました。

■キャッシュ・フローの状況

2020年度におけるキャッシュ・フローについては、営業活動によるキャッシュ・フローは、貸出金の増加による7,801億61百万円の支出や買入金銭債権の増加による2,398億6百万円の支出等があった一方、預金の増加による2兆1,408億95百万円の収入があったことから、1兆5,014億94百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の取得による1,896億68百万円の支出があった一方、有価証券の償還による1,822億97百万円の収入があったことから、375億48百万円の収入となりました。

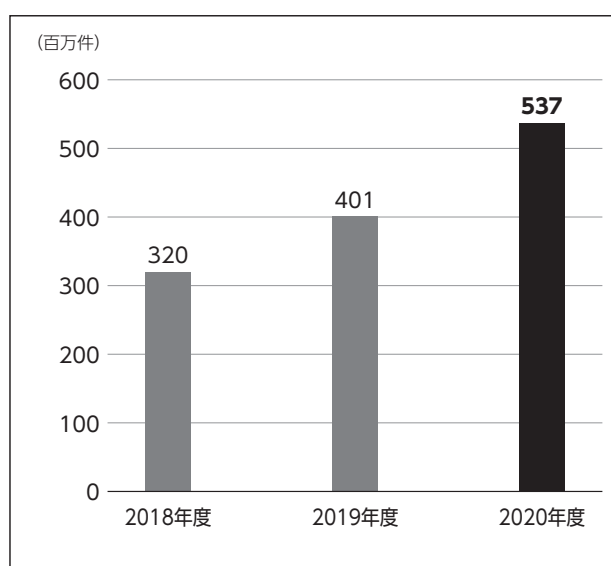
以上の結果、現金及び現金同等物の増加額は1兆5,399億70百万円となり、現金及び現金同等物の当年度末残高は2兆6,829億69百万円となりました。

●預金残高の推移



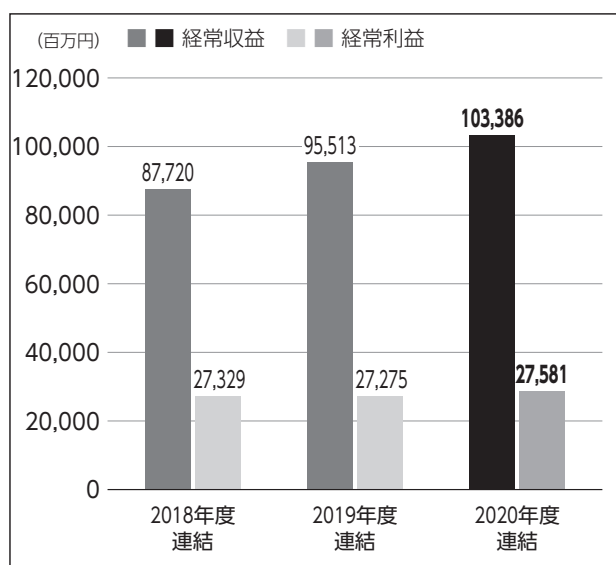
(注) 1. 上記預金残高は連結ベース。
2. 普通預金は「その他預金」「外貨預金」を含む。

●決済件数の推移

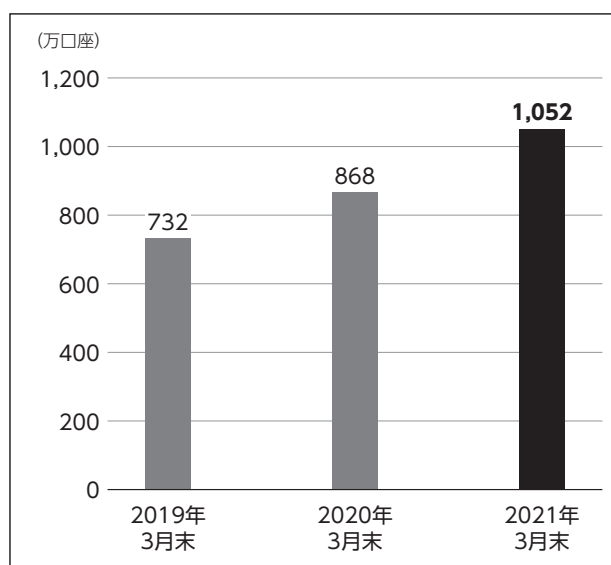


(注) 1. 上記「決済件数」は各年度の対外入金件数と、口座振替件数の合計を記載しております。
2. 楽天銀行単体 (2021年3月31日時点)。

●業績の推移



●口座数の推移 (累計)



(注) 1. 上記「口座数」は個人口座及びビジネス口座の口座開設承認数の累計ベースで算出 (解約件数を除く)。
2. 楽天銀行単体 (2021年3月31日時点)。

連結財務諸表

当行グループの銀行法第20条第2項の規定により作成した書面は、会社法第396条第1項によるEY新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

■連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2019年度 (2020年3月31日現在)	2020年度 (2021年3月31日現在)
資産の部		
現金預け金	1,117,044	2,682,972
債券貸借取引支払保証金	—	76,397
買入金銭債権	1,289,340	1,529,040
有価証券	150,808	107,504
貸出金	1,115,493	1,895,656
外国為替	6,094	7,513
その他資産	153,872	160,020
有形固定資産	1,748	3,278
建物	248	250
その他の有形固定資産	1,499	3,028
無形固定資産	9,434	14,095
ソフトウェア	5,867	11,261
ソフトウェア仮勘定	3,398	2,700
のれん	168	132
その他の無形固定資産	0	0
繰延税金資産	2,331	3,300
支払承諾見返	6,558	8,521
貸倒引当金	△992	△1,460
資産の部合計	3,851,733	6,486,841

	2019年度 (2020年3月31日現在)	2020年度 (2021年3月31日現在)
負債の部		
預金	3,404,868	5,545,947
借入金	214,200	663,200
外国為替	341	945
その他負債	77,002	79,828
賞与引当金	415	532
役員賞与引当金	3	3
退職給付に係る負債	428	806
睡眠預金払戻損失引当金	22	27
ポイント引当金	209	237
支払承諾	6,558	8,521
負債の部合計	3,704,050	6,300,050
純資産の部		
資本金	25,954	25,954
資本剰余金	2,468	2,468
利益剰余金	119,746	138,982
株主資本合計	148,168	167,405
その他有価証券評価差額金	123	△271
繰延ヘッジ損益	△555	△626
為替換算調整勘定	—	1,508
退職給付に係る調整累計額	△54	△42
その他の包括利益累計額合計	△486	568
非支配株主持分	—	18,817
純資産の部合計	147,682	186,790
負債及び純資産の部合計	3,851,733	6,486,841

■連結損益計算書

(単位：百万円)

	2019年度 (2019年4月1日～2020年3月31日)	2020年度 (2020年4月1日～2021年3月31日)
経常収益	95,513	103,386
資金運用収益	60,071	59,498
貸出金利息	46,445	45,371
有価証券利息配当金	120	88
コールローン利息	6	2
債券貸借取引受入利息	0	16
預け金利息	198	△139
その他の受入利息	13,300	14,158
役務取引等収益	29,544	38,368
その他業務収益	4,253	4,212
その他経常収益	917	483
貸倒引当金戻入益	277	—
償却債権取立益	5	7
その他の経常収益	634	476
信託報酬	726	823
経常費用	68,238	75,804
資金調達費用	2,907	3,551
預金利息	2,770	3,408
コールマネー利息	△2	—
借入金利息	0	—
その他の支払利息	138	143
役務取引等費用	33,594	35,526
その他業務費用	—	7
営業経費	31,513	35,810
その他経常費用	221	908
貸倒引当金繰入額	—	649
その他の経常費用	221	259
経常利益	27,275	27,581
特別利益	—	90
資産除去債務取崩益	—	90
特別損失	7	462
固定資産処分損	7	73
本社移転費用	—	19
その他の特別損失	—	369
税金等調整前当期純利益	27,267	27,210
法人税、住民税及び事業税	8,178	9,047
法人税等調整額	129	△703
法人税等合計	8,307	8,344
当期純利益	18,960	18,866
非支配株主に帰属する当期純損失 (△)	—	△471
親会社株主に帰属する当期純利益	18,960	19,337

■連結株主資本等変動計算書

2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				その他の包括利益累計額				純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	退職給付に 係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計	
当期首残高	25,954	2,468	100,786	129,208	504	△175	0	329	129,538
当期変動額									
親会社株主に帰属する 当期純利益	—	—	18,960	18,960	—	—	—	—	18,960
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	—	—	—	—	△380	△380	△54	△815	△815
当期変動額合計	—	—	18,960	18,960	△380	△380	△54	△815	18,144
当期末残高	25,954	2,468	119,746	148,168	123	△555	△54	△486	147,682

2020年度(2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				その他の包括利益累計額					非支配 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	25,954	2,468	119,746	148,168	123	△555	—	△54	△486	—	147,682
当期変動額											
親会社株主に帰属する 当期純利益	—	—	19,337	19,337	—	—	—	—	—	—	19,337
連結範囲の変動	—	—	△101	△101	—	—	80	—	80	17,859	17,838
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	—	—	—	—	△395	△70	1,428	12	974	957	1,931
当期変動額合計	—	—	19,236	19,236	△395	△70	1,508	12	1,054	18,817	39,108
当期末残高	25,954	2,468	138,982	167,405	△271	△626	1,508	△42	568	18,817	186,790

■連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2019年度 (2019年4月1日～2020年3月31日)	2020年度 (2020年4月1日～2021年3月31日)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	27,267	27,210
減価償却費	2,660	3,300
のれん償却額	35	35
貸倒引当金の増減(△)	△676	468
賞与引当金の増減額(△は減少)	41	74
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	252	370
ポイント引当金の増減額(△は減少)	18	28
睡眠預金払戻損失引当金の増減(△)	△48	4
資金運用収益	△60,071	△59,498
資金調達費用	2,907	3,551
有価証券関係損益(△)	△259	△296
固定資産処分損益(△は益)	7	73
貸出金の純増(△)減	△163,314	△780,161
預金の純増減(△)	793,649	2,140,895
借入金の純増減(△)	24,450	449,000
預け金(現金同等物を除く)の純増(△)減	△10,000	10,000
コールローン等の純増(△)減	18,000	—
債券貸借取引支払保証金の純増(△)減	—	△74,635
外国為替(資産)の純増(△)減	5,145	△1,418
外国為替(負債)の純増減(△)	149	603
買入金銭債権の純増(△)減	△245,925	△239,806
権利金保証金の純増(△)減	△82,480	△15,264
資金運用による収入	60,080	59,805
資金調達による支出	△2,900	△3,528
その他	△378	△10,225
小計	368,608	1,510,586
法人税等の支払額	△10,960	△9,092
営業活動によるキャッシュ・フロー	357,648	1,501,494
II 投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△283,846	△189,668
有価証券の売却による収入	38,995	50,361
有価証券の償還による収入	206,970	182,297
有形固定資産の取得による支出	△484	△1,491
有形固定資産の売却による収入	164	—
無形固定資産の取得による支出	△3,880	△3,943
その他	—	△6
投資活動によるキャッシュ・フロー	△42,080	37,548
III 財務活動によるキャッシュ・フロー		
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	—	926
V 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	315,568	1,539,970
VI 現金及び現金同等物の期首残高	791,476	1,107,044
VII 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加高	—	35,955
VIII 現金及び現金同等物の期末残高	1,107,044	2,682,969

連結財務諸表の作成方針 - 2020年度 -

1. 連結計算書類の作成方針

(1) 連結の範囲に関する事項

①連結される子会社及び子法人等 23社

会社名
 楽天信託株式会社
 楽天国際商業銀行股份有限公司
 一般社団法人スーパーラストホールディングス
 合同会社スーパーラスト1
 合同会社スーパーラスト2
 合同会社スーパーラスト3
 合同会社スーパーラスト4
 合同会社スーパーラスト5
 合同会社スーパーラスト6
 合同会社スーパーラスト7
 合同会社スーパーラスト8
 合同会社スーパーラスト9
 合同会社スーパーラスト10
 合同会社スーパーラスト11
 合同会社スーパーラスト12
 合同会社スーパーラスト13
 合同会社スーパーラスト14
 合同会社スーパーラスト15
 合同会社スーパーラスト16
 合同会社スーパーラスト17
 合同会社スーパーラスト18
 合同会社スーパーラスト19
 合同会社スーパーラスト20

なお、楽天国際商業銀行股份有限公司は、設立により当連結会計年度から連結しております。

②非連結の子会社及び子法人等 4社

会社名
 楽天バンクドメインサービス株式会社
 トランスバリュードメインサービス株式会社
 東松島〔絆〕太陽光発電所（実績配当型合同運用指定金銭信託）
 東松島〔絆〕太陽光発電所事業信託（単独運用指定金銭信託）
 非連結の子会社及び子法人等は、その資産、経常収益、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

(2) 持分法の適用に関する事項

①持分法適用の非連結の子会社及び子法人等 0社

②持分法適用の関連法人等 0社

③持分法非適用の非連結の子会社及び子法人等 4社

会社名
 楽天バンクドメインサービス株式会社
 トランスバリュードメインサービス株式会社
 東松島〔絆〕太陽光発電所（実績配当型合同運用指定金銭信託）
 東松島〔絆〕太陽光発電所事業信託（単独運用指定金銭信託）
 持分法非適用の非連結の子会社及び子法人等は、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除いております。

④持分法非適用の関連法人等 0社

(3) 連結される子会社及び子法人等の事業年度等に関する事項

①連結される子会社及び子法人等の決算日と連結決算日は次のとおりであります。

12月末日 1社 3月末日 22社

②12月末日を決算日とする連結される子会社及び子法人等については、3月末日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表により、またその他の連結される子会社及び子法人等については、それぞれの決算日の財務諸表により連結しております。連結決算日と上記の決算日等との間に生じた重要な取引については、必要な調整を行っております。

(4) のれんの償却に関する事項

10年間の定額法により償却を行っております。

連結注記表 - 2020年度 -

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

子会社、子法人等及び関連法人等の定義は、銀行法第2条第8項及び銀行法施行令第4条の2に基づいております。

1. 会計方針に関する事項

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、持分法非適用の非連結子会社・子法人等株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については原則として連結決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

(3) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

当行の有形固定資産は、定額法を採用しております。

また主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物：3年～18年

その他：2年～20年

連結される子会社及び子法人等の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、定額法により償却しております。

②無形固定資産（リース資産を除く）

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行並びに連結される子会社及び子法人等で定める利用可能期間（主として5年）に基づいて償却しております。

(4) 貸倒引当金の計上基準

当行の貸倒引当金は、予め定めている償却引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下、「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下、「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下、「破綻懸念先」という。）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

上記以外の債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の貸倒実績又は倒産実績を基礎とした貸倒実績率又は倒産確率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は199百万円であります。

連結される子会社及び子法人等の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

(5) 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

(6) 役員賞与引当金の計上基準

役員賞与引当金は、役員への賞与の支払いに備えるため、役員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

(7) ポイント引当金の計上基準

ポイントサービスの将来の利用による負担に備えるため、未利用の付与済ポイントを金額に換算した残高のうち、将来利用される見込額を合理的に見積り、必要と認める額を計上しております。

(8) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております

(9) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。また、数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

数理計算上の差異:各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（主として1年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生した翌連結会計年度から損益処理

(10) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

当行並びに連結される子会社及び子法人等の外貨建資産・負債は、主として連結決算日の為替相場により換算しております。

(11) 重要なヘッジ会計の方法

①ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理及び金利スワップの特例処理によっております。

②ヘッジ手段とヘッジ対象

・ヘッジ手段…為替予約、通貨スワップ、円金利スワップ

・ヘッジ対象…外貨建有価証券、外貨建定期預金に係る未履行の確定契約、日本国債等の円貨建有価証券

③ヘッジ方針

行内規程に基づき、市場リスク等をヘッジしております。

④ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間におけるヘッジ対象の対象リスクから生じる価格変動額と、ヘッジ手段の対象リスクから生じる価格変動額とを比較して判断しております。ただし、金利スワップの特例処理の要件に該当する場合は、その判定をもって有効性の評価を省略しております。

なお、当行の一部の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第25号 令和2年10月8日。以下、「業種別委員会実務指針第25号」という。）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

(12) 消費税等の会計処理

当行並びに国内の連結される子会社及び子法人等の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(13) 連結納税制度の適用

当行及び国内の連結される子会社は、楽天グループ株式会社を連結納税親会社とする連結納税主体の連結納税子会社として、連結納税制度を適用しております。

(表示方法の変更)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号 2020年3月31日）を当連結会計年度より適用し、重要な会計上の見積りに関する注記を開示しております。

(重要な会計上の見積り)

会計上の見積りにより当連結会計年度に係る連結財務諸表にその額を計上した項目であって、翌連結会計年度に係る連結財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

1. 貸倒引当金

(1) 当連結会計年度に係る連結財務諸表に計上した額 貸倒引当金 1,460百万円

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

①算出方法

貸倒引当金の算出方法は、「1.会計方針に関する事項」〔(4) 貸倒引当金の計上基準〕に記載しております。

②主要な仮定

主要な仮定は、「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」であります。「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」は、各債務者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しております。

③翌連結会計年度に係る連結財務諸表に及ぼす影響

個別貸出先の業績変化等により、当初の見積りに用いた仮定が変化した場合、翌連結会計年度に係る連結財務諸表における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。

2. 金融商品の時価

(1) 当連結会計年度に係る連結財務諸表に計上した額

「(金融商品関係)」に記載しております。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

①算出方法

金融商品の時価の算出方法は、「(金融商品関係)」〔(注)1 金融商品の時価の算定方法〕に記載しております。

②主要な仮定

主要な仮定は時価評価モデルに用いるインプットであり、為替相場、イールドカーブ、有価証券の時価等の市場で直接又は間接的に観察可能なインプットのほか、相関係数等の重要な見積りを含む市場で観察できないインプットを使用する場合もあります。

③翌連結会計年度に係る連結財務諸表に及ぼす影響

市場環境の変化等により主要な仮定であるインプットが変化することにより、金融商品の時価が増減する可能性があります。

(追加情報)

当行並びに国内の連結される子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲)

連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち、定期預け金及び譲渡性預け金以外のものであります。

注記事項 ー2020年度ー

(連結貸借対照表関係)

1. 関係会社の株式総額（連結子会社及び連結子法人等の株式を除く） 1百万円

2. 現金担保付債券貸借取引により受け入れている有価証券のうち、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有する有価証券で、（再）担保に差し入れている有価証券は41,816百万円、当連結会計年度末に当該処分をせずに所有している有価証券は33,425百万円であります。

3. 貸出金のうち、破綻先債権額は14百万円、延滞債権額は1,460百万円であります。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

4. 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は12百万円であります。

なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

5. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は9百万円であります。

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。

6. 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は1,497百万円であります。

なお、上記3.から6.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

7. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

買入金銭債権等	246,756百万円
有価証券	86,575百万円
貸出金	761,048百万円

担保資産に対応する債務

借入金	663,200百万円
-----	------------

上記のほか、為替決済、デリバティブ等の取引の担保として、有価証券10,414百万円を差し入れております。

また、その他資産には、中央清算機関差入証拠金94,186百万円、先物取引差入証拠金434百万円、金融商品等差入担保金11,129百万円及び保証金11,705百万円が含まれております。

8. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、523,946百万円であり、このうち原契約期間が任意の時期に無条件で取消可能なものが523,946百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行並びに連結される子会社及び子法人等の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約は、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行並びに連結される子会社及び子法人等が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約後も定期的に予め定められている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

9. 有形固定資産の減価償却累計額 2,626百万円

10. 当行においては、資金運用の効率化及び代替流動性の確保を目的として取引銀行と当座借越契約を締結しております。

当連結会計年度末における当座借越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

当座借越極度額の総額	10,000百万円
借入実行残高	—百万円
差引額	10,000百万円

(連結損益計算書関係)

1. 「その他の経常収益」には、償却債権取立益7百万円を含んでおります。

2. 「その他の経常費用」には、貸倒引当金繰入額649百万円、貸出金償却15百万円及び貸倒償却0百万円を含んでおります。

3. 「その他の特別損失」は、楽天国際商業銀行股份有限公司が台湾における労働者福利金条例第2条に基づき支払った、労働者福利金の創立時に必要となる積立額であります。

(連結株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度				摘要
	当連結会計年度 期首株式数	増加株式数	減少株式数	当連結会計 年度末株式数	
発行済株式					
普通株式	2,349	—	—	2,349	
合計	2,349	—	—	2,349	

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項
該当事項はありません。
3. 配当に関する事項
該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	(単位：百万円)
現金預け金勘定	2,682,972
定期預け金	△3
現金及び現金同等物	2,682,969

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当行グループでは、預金業務、為替業務及び個人向け貸出業務を主たる業務としており、個人・法人顧客の双方に普通預金、一般定期預金、外貨普通預金を、個人顧客向けに新型定期預金及び外貨定期預金を各々提供し、また、当該金融負債を主たる原資として、個人顧客向けに保証付無担保カードローン及び住宅ローン等を提供しているほか、有価証券や買入金銭債権の購入、金銭の信託の設定、コールローン等の市場取引、顧客への金融商品販売に付随して発生するデリバティブ・為替関連取引等を実施し、銀行のもつ社会的責任と公共的使命の重みを常に認識し、過度な利益追求等により経営体力を超える運用を行うことを厳に慎み、とりわけ顧客から預った預金については、十分安全性に配慮した運用を実施しております。また、運用調達業務全般にわたり、資産・負債構成の最適な水準の自己資本充実度の確保を目的とし、金利感応度、資金流動性、市場流動性等に留意したALM(資産負債総合管理)運営を行っております。

デリバティブ取引に対しては慎重な態度で臨み、投機的な収益獲得手段としては取扱わない方針としております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当行グループが保有する金融資産は、主として有価証券、買入金銭債権、貸出金です。

有価証券については、主として国債、地方債、社債、外国証券等であり、これらは、それぞれ発行体の信用リスク、金利の変動リスク、市場価格の変動リスク、為替の変動リスク及び流動性リスクに晒されております。買入金銭債権については、主として各種信託受益権であり、これらは、それぞれ発行体及び原資産の信用リスク及び金利の変動リスクなどに晒されております。貸出金については、主として個人顧客に対する保証付貸出金であり、個人顧客及び保証会社の信用リスクに晒されております。業種や地域などの特定集中リスクには、特段晒されておられません。

金融負債については、個人・法人顧客向の普通預金、一般定期預金、外貨普通預金、個人顧客向け新型定期預金のほか、外貨定期預金といった商品を提供しております。新型定期預金については、金利の変動リスクに晒されておりますが、対応した金利スワップ取引を行うことにより、当該リスクをヘッジしております。外貨普通預金・外貨定期預金については、為替の変動リスクに晒されておりますが、対応した為替予約取引を行うことにより、当該リスクをヘッジしております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当行グループでは、リスク管理を行うに際しての基本的事項を、「統合的リスク管理基本規程」として制定しております。この中で、管理すべきリスクの種類を、①信用リスク、②市場リスク、③資金流動性リスク、④市場流動性リスク、⑤決済リスク、⑥オペレーションリスク(事務リスク、システムリスク等)と分類・特定し、各リスクの管理の基本方針を定めております。また、自己資本の適切性確保を前提として、外部経済環境を考慮に入れつつ、経営戦略の実現及び収益の最大化を図るための、健全かつ最適な運用・調達ポートフォリオの構築を目的とした「ALM規程」を制定しております。

管理すべきリスクの種類については、随時見直しを行い、環境変化に応じて新たに発生したリスクを、管理すべきリスクとして追加することとしています。これらのリスクを総合的に管理する観点から、グループ全体のリスク管理を統括するリスク管理本部を設置し、各リスクについて網羅的、体系的な管理を行っています。また、ALMについては、ALM本部が所管し、運営に当たっております。

当行グループでは、市場リスク及び信用リスクを、自己資本充実度の評価において最も重視すべきリスクの対象とし、各リスクカテゴリーへの自己資本配賦の実施と、その配賦額内へのリスクの抑制というプロセスにより、適切な自己資本充実度を確保できる範囲内でのみリスクを許容する、リスク管理を実施しております。

(4) 市場リスクに係る定量的情報

(金利リスクの管理)

当行グループにおいて、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける金融資産は、主として有価証券、買入金銭債権、貸出金であります。

金融負債については、個人・法人顧客向の普通預金、個人顧客向け一般定期預金、新型定期預金のほか、外貨普通預金や外貨定期預金、デリバティブ取引のうち金利スワップ取引であります。

当行グループでは、一定の金利変動下において、これらの金融資産及び金融負債を時価評価し、その相殺後純額(以下、「現在価値」)の影響額を、金利変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用してお

ります。

現在価値の影響額の算定にあたっては、対象の金融資産及び金融負債を固定金利群と変動金利群に分け、それぞれ金利期日に応じて適切な期間に残高を分解し、期間ごとの金利変動幅を用いております。例えば、2021年3月31日現在、金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、指標となる金利が全て10ベース・ポイント(0.1%)上昇した場合、現在価値が1,425百万円増加し、逆に10ベース・ポイント(0.1%)下落した場合、1,425百万円減少すると認識しております。

なお、当該影響額は、金利とその他のリスク変数との相関を考慮しておらず、また外貨建資産、負債については、2021年3月31日の為替レートをもとに日本円に換算して算出しております。くわえて、10ベース・ポイント下落時に、期間によって金利が負債になる場合については、排除してありません。

(為替リスクの管理)

当行グループにおいて、主要なリスク変数である為替リスクの影響を受ける金融資産は、外国証券、外国為替であります。

金融負債については、預金のうち外貨建普通預金及び外貨定期預金、デリバティブ取引のうち為替予約取引及び為替スワップ取引等であります。当行グループでは、一定の為替変動下において、これらの金融資産及び金融負債に係る現在価値の影響額を、為替変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しております。

現在価値の影響額の算定にあたっては、対象の金融資産及び金融負債を通貨別に分け、当該通貨ごとの為替変動幅を用いております。例えば、2021年3月31日時点で、為替以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、各通貨に対して円が10%上昇した場合、現在価値が7百万円減少し、逆に円が10%下落した場合、7百万円増加すると認識しております。

なお、当該影響額は、為替とその他のリスク変数との相関を考慮しておらず、また、通貨別の現在価値の影響額を、2021年3月31日の為替レートをもとに、日本円に換算して算出しております。

(5) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2021年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金預け金	2,682,972	2,682,972	—
(2) 債券貸借取引支払保証金	76,397	76,397	—
(3) 買入金銭債権(※1)	1,529,011	1,529,706	694
(4) 有価証券			
満期保有目的の債券	6,200	6,243	43
その他有価証券	101,294	101,294	—
(5) 貸出金	1,895,656	—	—
貸倒引当金(※1)	△1,386	—	—
	1,894,270	1,897,855	3,585
(6) 外国為替	7,513	7,513	—
資産計	6,297,660	6,301,984	4,323
(1) 預金	5,545,947	5,545,995	△47
(2) 借入金	663,200	663,200	—
負債計	6,209,147	6,209,195	△47
デリバティブ取引(※2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	6,037	6,037	—
ヘッジ会計が適用されているもの	△765	△765	—
デリバティブ取引計	5,271	5,271	—

(※1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。なお、買入金銭債権に対する貸倒引当金については、重要性が乏しいため、連結貸借対照表計上額から直接減額しております。

(※2) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、△で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。また、譲渡性預け金は、取引金融機関から提示された価格によっております。

(2) 債券貸借取引支払保証金

これらは残存期間が短期間(1年以内)であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(3) 買入金銭債権

買入金銭債権のうち、優先劣後等のように質的に分割されており保有

者が複数であるような信託受益権については、取引金融機関から提示された価格によっております。それ以外のものについては、「(5) 貸出金」と同様の方法により時価を算定しております。

(4) 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については「(有価証券関係)」に記載しております。

(5) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類、期間に基づく区分ごとに、元金合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いた時価を算定しております。なお、残存期間が短期間（1年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒引当金を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

(6) 外国為替

外国為替は、他の銀行に対する外貨預け金（外国他店預け）であります。これらは、満期のない預け金であり、それぞれ時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

負債

(1) 預金

要求払預金については、連結決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしております。また、定期預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算出してしております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、残存期間が短期間（1年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2) 借入金

借入金のうち、固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元金合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算出してしております。なお、残存期間が短期間（1年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引は、金利関連取引（金利スワップ、金利スワップション等）、通貨関連取引（通貨先物、通貨オプション、通貨スワップ等）、債券関連取引（債券先物等）であり、取引所の価格、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算出した価額によっております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産(4) その他有価証券」には含まれておりません。

(単位：百万円)	
区分	連結貸借対照表計上額
①非上場外国証券	0
②非連結子会社株式	1
③その他証券	8
合計	10

(※1)非上場外国証券及び非連結子会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

(※2)その他証券のうち、裏付資産が非上場株式など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されているものについては、時価開示の対象とはしておりません。

(有価証券関係)

連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金及び「買入金銭債権」中の信託受益権の一部が含まれております。

1. 売買目的有価証券（2021年3月31日現在）

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券（2021年3月31日現在）

種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
国債	—	—	—
地方債	—	—	—
短期社債	—	—	—
社債	—	—	—
その他	6,200	6,243	43
小計	6,200	6,243	43
国債	—	—	—
地方債	—	—	—
短期社債	—	—	—
社債	—	—	—
その他	—	—	—
小計	—	—	—
合計	6,200	6,243	43

3. その他有価証券（2021年3月31日現在）

種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
株式	—	—	—
債券	8,870	8,843	27
国債	—	—	—
地方債	—	—	—
短期社債	—	—	—
社債	8,870	8,843	27
その他	27,727	27,706	20
小計	36,597	36,550	47
株式	—	—	—
債券	91,226	91,551	△325
国債	—	—	—
地方債	—	—	—
短期社債	—	—	—
社債	91,226	91,551	△325
その他	107,827	107,956	△128
小計	199,054	199,507	△453
合計	235,651	236,057	△406

4. 当連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

該当事項はありません。

5. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	—	—	—
債券	—	—	—
国債	—	—	—
地方債	—	—	—
短期社債	—	—	—
社債	51,472	296	—
その他	—	—	—
合計	51,472	296	—

6. 減損処理を行った有価証券

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たりの純資産額 71,493円91銭
1株当たりの親会社株主に帰属する当期純利益金額 8,230円48銭

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

セグメント情報

・2019年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)及び2020年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
 (セグメント情報)

当行グループは、一部で銀行業以外の事業を営んでおりますが、それらの事業は量的に重要性が乏しく、報告セグメントは銀行単一となるため、記載は省略しております。

関連当事者取引 (連結)

(1) 親会社及び法人主要株主等

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	当期末残高
親会社の 親会社	楽天グループ 株式会社	被所有 間接 100.0%	役員の兼任 従業員出向	連結納税	※1 1,837	未払金	1,837

(注) (※1) 一般の取引と同様の条件で行っております。

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	当期末残高
親会社	楽天カード 株式会社	被所有 直接 100.0%	債務保証、 業務委託、 集金代行他	受益権の引受け	※2 170,191	買入金銭債権	※1 1,349,382
				個人ローン債権に 対する被保証残高	301,930	未払金	40,000
				保証料の支払	※3 17,754	—	—
				代位弁済受入額	14,889	—	—
				受益権の受取利息	※1 12,248	未収利息	※1 1,133

(注) (※1) 取引条件は、一般の市場情勢を勘案し楽天カード株式会社と協議の上、決定しております。

(※2) 受益権の引受けの取引金額は純額を表示しております。

(※3) 保証料は、一般に採用される保証料率を勘案し楽天カード株式会社と協議の上、決定しております。

リスク管理債権、金融再生法開示債権

■銀行法に基づくリスク管理債権

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
破綻先債権	14	14
延滞債権	1,046	1,460
3カ月以上延滞債権	—	12
貸出条件緩和債権	—	9
合計	1,061	1,497

■金融再生法に基づく開示債権

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	14	14
危険債権	1,083	1,496
要管理債権	—	22
正常債権	1,129,260	1,912,182
合計	1,130,359	1,913,715

(注) 上記は、金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づくものであります。

事業の概況(単体)

■主要な経営指標

(単位：百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
経常収益	69,886	79,142	86,967	94,704	102,442
経常利益	18,747	23,425	26,913	26,755	27,870
当期純利益	13,303	16,283	18,764	18,613	19,466
資本金	25,954	25,954	25,954	25,954	25,954
発行済株式の総数 普通株式	2,349千株	2,349千株	2,349千株	2,349千株	2,349千株
純資産額	93,189	109,746	128,641	146,493	165,494
総資産額	1,993,134	2,470,385	3,193,129	4,021,107	6,684,682
預金残高	1,723,537	2,127,741	2,808,279	3,575,634	5,765,538
貸出金残高	640,966	801,841	952,178	1,115,493	1,895,615
有価証券残高	325,143	328,656	373,648	411,146	384,610
単体自己資本比率(国内基準)	10.83%	10.74%	10.66%	10.32%	10.50%
配当性向	—	—	—	—	—
従業員数(期末時点)	584人	634人	702人	717人	779人

(注) 1. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を採用しております。

3. 従業員数は、正社員、嘱託、契約社員及び他社から当行への出向者を含む人数を記載しており、当行から他社への出向者は除いております。

■損益の状況

経常収益は、2ページに掲載の理由等により、1,024億42百万円となりました。経常費用は2ページに記載の理由等により、745億71百万円となりました。

結果、経常利益は278億70百万円となり、税引前当期純利益は278億80百万円となりました。

当期純利益は、2ページに記載の理由等により、194億66百万円となりました。

■財政状態

2020年度末における預金残高は、2ページに掲載した理由等により、5兆7,655億38百万円となりました。また、負債の部の合計額は、6兆5,191億88百万円となりました。

資産の状況は、2ページに掲載した理由等により、有価証券は3,846億10百万円、買入金銭債権は1兆4,900億69百万円、貸出金は1兆8,956億15百万円、現金預け金は2兆6,813億59百万円となりました。これらの結果として、資産の部合計は、6兆6,846億82百万円となりました。

また、純資産については、当期純利益の計上により利益剰余金が1,379億70百万円となったことから、1,654億94百万円となりました。

財務諸表

当行の銀行法第20条第1項の規定により作成した書面は、会社法第396条第1項によるEY新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

貸借対照表

(単位：百万円)

	2019年度 (2020年3月31日現在)	2020年度 (2021年3月31日現在)		2019年度 (2020年3月31日現在)	2020年度 (2021年3月31日現在)
資産の部			負債の部		
現金預け金	1,116,334	2,681,359	預金	3,575,634	5,765,538
預け金	1,116,334	2,681,359	普通預金	3,004,372	5,223,110
債券貸借取引支払保証金	—	42,971	定期預金	490,912	445,208
買入金銭債権	1,198,381	1,490,069	その他の預金	80,349	97,220
有価証券	411,146	384,610	借入金	214,200	663,200
短期社債	270,847	259,730	借入金	214,200	663,200
社債	127,081	100,096	外国為替	341	945
株式	491	491	未払外国為替	341	945
その他の証券	12,725	24,292	その他負債	76,871	79,518
貸出金	1,115,493	1,895,615	未決済為替借	9,760	12,115
証書貸付	748,585	1,560,865	未払法人税等	603	570
当座貸越	366,907	334,750	未払費用	5,931	6,378
外国為替	6,094	7,513	前受収益	540	705
外国他店預け	6,094	7,513	先物取引受入証拠金	10,131	13,088
その他資産	154,787	160,846	金融派生商品	7,437	3,312
未決済為替貸	14,601	21,116	金融商品等受入担保金	331	381
前払費用	1,164	1,835	資産除去債務	184	—
未収収益	5,183	5,766	その他の負債	41,952	42,966
先物取引差入証拠金	432	434	賞与引当金	404	457
金融派生商品	5,348	8,584	退職給付引当金	372	741
金融商品等差入担保金	10,780	11,129	睡眠預金払戻損失引当金	22	27
その他の資産	117,277	111,978	ポイント引当金	209	237
有形固定資産	1,737	1,596	支払承諾	6,558	8,521
建物	242	206	負債の部合計	3,874,614	6,519,188
その他の有形固定資産	1,494	1,390	純資産の部		
無形固定資産	9,266	10,091	資本金	25,954	25,954
ソフトウェア	5,867	7,390	資本剰余金	2,468	2,468
ソフトウェア仮勘定	3,398	2,700	資本準備金	2,468	2,468
その他の無形固定資産	0	0	利益剰余金	118,503	137,970
繰延税金資産	2,301	2,946	その他利益剰余金	118,503	137,970
支払承諾見返	6,558	8,521	繰越利益剰余金	118,503	137,970
貸倒引当金	△992	△1,459	株主資本合計	146,925	166,392
資産の部合計	4,021,107	6,684,682	その他有価証券評価差額金	123	△271
			繰延ヘッジ損益	△555	△626
			評価・換算差額等合計	△432	△898
			純資産の部合計	146,493	165,494
			負債及び純資産の部合計	4,021,107	6,684,682

■損益計算書

(単位：百万円)

	2019年度 (2019年4月1日～2020年3月31日)	2020年度 (2020年4月1日～2021年3月31日)
経常収益	94,704	102,442
資金運用収益	60,049	59,377
貸出金利息	46,445	45,371
有価証券利息配当金	528	602
コールローン利息	6	2
債券貸借取引受入利息	0	1
預け金利息	198	△218
その他の受入利息	12,870	13,616
役務取引等収益	29,534	38,350
受入為替手数料	7,418	8,707
その他の役務収益	22,116	29,642
その他業務収益	4,253	4,222
外国為替売買益	3,717	3,601
国債等債券売却益	259	296
金融派生商品収益	276	318
その他の業務収益	—	7
その他経常収益	866	492
貸倒引当金戻入益	226	—
償却債権取立益	5	7
その他の経常収益	634	484
経常費用	67,948	74,571
資金調達費用	2,909	3,552
預金利息	2,772	3,409
コールマネー利息	△2	—
借入金利息	0	—
金利スワップ支払利息	138	129
その他の支払利息	0	13
役務取引等費用	33,587	35,519
支払為替手数料	4,598	5,440
その他の役務費用	28,988	30,078
営業経費	31,230	34,591
その他経常費用	221	908
貸倒引当金繰入額	—	649
貸出金償却	65	14
その他の経常費用	156	244
経常利益	26,755	27,870
特別利益	—	90
資産除去債務取崩益	—	90
特別損失	7	81
固定資産処分損	7	65
本社移転費用	—	16
税引前当期純利益	26,747	27,880
法人税、住民税及び事業税	8,021	8,852
法人税等調整額	112	△438
法人税等合計	8,134	8,413
当期純利益	18,613	19,466

■株主資本等変動計算書

2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						評価・換算差額等			純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	評価・ 換算差額等 合計	
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計					
当期首残高	25,954	2,468	2,468	99,890	99,890	128,312	504	△175	328	128,641
当期変動額										
当期純利益	—	—	—	18,613	18,613	18,613	—	—	—	18,613
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	△380	△380	△760	△760
当期変動額合計	—	—	—	18,613	18,613	18,613	△380	△380	△760	17,852
当期末残高	25,954	2,468	2,468	118,503	118,503	146,925	123	△555	△432	146,493

2020年度(2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						評価・換算差額等			純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	評価・ 換算差額等 合計	
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計					
当期首残高	25,954	2,468	2,468	118,503	118,503	146,925	123	△555	△432	146,493
当期変動額										
当期純利益	—	—	—	19,466	19,466	19,466	—	—	—	19,466
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	△395	△70	△466	△466
当期変動額合計	—	—	—	19,466	19,466	19,466	△395	△70	△466	19,000
当期末残高	25,954	2,468	2,468	137,970	137,970	166,392	△271	△626	△898	165,494

個別注記表 - 2020年度 -

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

重要な会計方針 - 2020年度 -

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社・子法人等株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については原則として決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。
なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法
デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。
3. 固定資産の減価償却の方法
(1) 有形固定資産（リース資産を除く）
有形固定資産は、定額法を採用しております。
また、主な耐用年数は次のとおりであります。
建 物：3年～18年
その他：2年～20年
(2) 無形固定資産（リース資産を除く）
無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（主として5年）に基づいて償却しております。
4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準
外貨建資産・負債は、取得時の為替相場による円換算額を付す子会社・子法人等株式を除き、決算日の為替相場による円換算額を付しております。
5. 引当金の計上基準
(1) 貸倒引当金
貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。
破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下、「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下、「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。
上記以外の債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績又は倒産実績を基礎とした貸倒実績率又は倒産確率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。
すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。
なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は199百万円であります。
- (2) 賞与引当金
賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。
- (3) 退職給付引当金
退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準により行っております。なお、数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。
数理計算上の差異:各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（主として1年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日翌事業年度から損益処理
- (4) 睡眠預金払戻損失引当金
睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。
- (5) ポイント引当金
ポイントサービスの将来の利用による負担に備えるため、未利用の付与済ポイントを金額に換算した残高のうち、将来利用される見込額を合理的に見積り、必要と認める額を計上しております。

6. ヘッジ会計の方法
(1) ヘッジ会計の方法
繰延ヘッジ処理及び金利スワップの特例処理により行っております。
(2) ヘッジ手段とヘッジ対象
・ヘッジ手段…為替予約、通貨スワップ、円金利スワップ
・ヘッジ対象…外貨建有価証券、外貨建定期預金に係る未履行の確定契約、日本国債等の円貨建有価証券
(3) ヘッジ方針
行内規程に基づき、市場リスク等をヘッジしております。
(4) ヘッジ有効性評価の方法
ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間におけるヘッジ対象の対象リスクから生じる価格変動額と、ヘッジ手段の対象リスクから生じる価格変動額とを比較して判断しております。ただし、金利スワップの特例処理の要件に該当する場合は、その判定をもって有効性の評価を省略しております。
なお、当行の一部の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第25号 令和2年10月8日。以下、「業種別委員会実務指針第25号」という。）に規定する繰延ヘッジにより行っております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。
7. 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税（以下、「消費税等」という。）の会計処理は、税抜方式により行っております。ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しております。
8. 連結納税制度の適用
当行は、楽天グループ株式会社を連結納税親会社とする連結納税主体の連結納税子会社として、連結納税制度を適用しております。

〔表示方法の変更〕

〔会計上の見積りの開示に関する会計基準』（企業会計基準第31号 2020年3月31日）を当事業年度より適用し、重要な会計上の見積りに関する注記を開示しております。

〔重要な会計上の見積り〕

会計上の見積りにより当事業年度に係る財務諸表にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

1. 貸倒引当金
(1) 当事業年度に係る財務諸表に計上した額 貸倒引当金 1,459百万円
(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報
①算出方法
貸倒引当金の算出方法は、「重要な会計方針」[5.引当金の計上基準]「(1) 貸倒引当金」に記載しております。
②主要な仮定
主要な仮定は、「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」であり、「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」は、各債務者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しております。
③翌事業年度に係る財務諸表に及ぼす影響
個別貸出先の業績変化等により、当初の見積りに用いた仮定が変化した場合、翌事業年度に係る財務諸表における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。
2. 金融商品の時価
(1) 当事業年度に係る財務諸表に計上した額
連結計算書類 注記事項（重要な会計上の見積り）に記載した金額をご参照ください。
(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報
連結計算書類 注記事項（重要な会計上の見積り）に記載した内容をご参照ください。

〔追加情報〕

〔所得税法等の一部を改正する法律』（令和2年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針』（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

注記事項 -2020年度-
(貸借対照表関係)

1. 関係会社の株式及び出資総額 18,371百万円
2. 現金担保付債券貸借取引により受け入れている有価証券のうち、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有する有価証券で、(再)担保に差し入れている有価証券は41,816百万円であります。
3. 貸出金のうち、破綻先債権額は14百万円、延滞債権額は1,460百万円であり、また、

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

- また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
4. 貸出金のうち、3か月以上延滞債権額は12百万円であり、また、

なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

5. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は9百万円であり、また、
6. 破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は1,497百万円であり、また、

なお、上記3.から6.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

7. 担保に供している資産は次のとおりであります。
担保に供している資産
有価証券 333,332百万円
貸出金 761,048百万円
担保資産に対応する債務
借入金 663,200百万円

上記のほか、為替決済、デリバティブ等の取引の担保として、有価証券10,414百万円を差し入れております。

- また、先物取引差入証拠金434百万円、金融商品等差入担保金11,129百万円、その他の資産には、中央清算機関差入証拠金94,186百万円及び保証金11,668百万円が含まれております。

8. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、523,946百万円であり、このうち原契約期間が任意の時期に無条件で取消可能なものが523,946百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約は、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

9. 有形固定資産の減価償却累計額 2,504百万円
10. 当行においては、資金運用の効率化及び代替流動性の確保を目的として取引銀行と当座借越契約を締結しております。

当事業年度末における当座借越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

当座借越極度額の総額	10,000百万円
借入実行残高	一百万円
差引額	10,000百万円

11. 取締役及び監査役との間の取引による取締役及び監査役に対する金銭債権総額はありません。
12. 親会社株式の金額 一百万円
13. 関係会社に対する金銭債権総額 1,571,608百万円
14. 関係会社に対する金銭債務総額 591,028百万円

(損益計算書関係)

1. 関係会社との取引による収益
資金運用取引に係る収益総額 12,221百万円
役員取引等に係る収益総額 1,564百万円
その他業務・その他経常取引に係る収益総額 18百万円
その他の取引に係る収益総額 一百万円

- 関係会社との取引による費用
資金調達取引に係る費用総額 1百万円
役員取引等に係る費用総額 17,796百万円
その他業務・その他経常取引に係る費用総額 14,199百万円
その他の取引に係る費用総額 一百万円

2. 関連当事者との取引
(1) 親会社及び法人主要株主等

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	当期末残高
親会社の親会社	楽天グループ株式会社	被所有間接 100.0%	役員の兼任 従業員出向	連結納税	※1 1,789	未払金	1,789

(注) (※1) 一般の取引と同様の条件で行っております。

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	当期末残高
親会社	楽天カード株式会社	被所有直接 100.0%	債務保証、業務委託、集金代行他	受益権の引受け 個人ローン債権 に対する被保証 残高	※2 222,178	買入金銭債権 未払金	※1 1,310,411 ※1 40,000
				保証料の支払	301,930	—	—
				代位弁済受入額	※3 17,754	—	—
				受益権の受取利息	14,889	—	—
					※1 11,707	未収利息	※1 1,133

(注) (※1) 取引条件は、一般の市場情勢を勘案し楽天カード株式会社と協議の上、決定しております。

(※2) 受益権の引受けの取引金額は純額を表示しております。

(※3) 保証料は、一般に採用される保証料率を勘案し楽天カード株式会社と協議の上、決定しております。

- (2) 子会社・子法人等及び関連法人等

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	当期末残高
子会社	合同会社スーパー トラスト1	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △26 38,972	短期社債 買入金銭債権	12,991 —
	合同会社スーパー トラスト2	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △27 51,969	短期社債 買入金銭債権	12,988 —
	合同会社スーパー トラスト3	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △27 51,968	短期社債 買入金銭債権	12,985 —
	合同会社スーパー トラスト4	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △27 25,986	短期社債 買入金銭債権	12,982 —
	合同会社スーパー トラスト5	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △27 38,990	短期社債 買入金銭債権	12,979 —
	合同会社スーパー トラスト6	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △53 77,965	短期社債 買入金銭債権	12,977 —
	合同会社スーパー トラスト7	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △50 51,972	短期社債 買入金銭債権	12,974 —
	合同会社スーパー トラスト8	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △25 38,973	短期社債 買入金銭債権	12,999 —
	合同会社スーパー トラスト9	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △26 51,972	短期社債 買入金銭債権	12,996 —
	合同会社スーパー トラスト10	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △26 51,973	短期社債 買入金銭債権	12,994 —
	合同会社スーパー トラスト11	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △26 38,971	短期社債 買入金銭債権	12,990 —
	合同会社スーパー トラスト12	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △27 25,974	短期社債 買入金銭債権	12,987 —
	合同会社スーパー トラスト13	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △27 38,968	短期社債 買入金銭債権	12,984 —
	合同会社スーパー トラスト14	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △27 38,976	短期社債 買入金銭債権	12,981 —
	合同会社スーパー トラスト15	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △27 38,978	短期社債 買入金銭債権	12,979 —
	合同会社スーパー トラスト16	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △53 51,963	短期社債 買入金銭債権	12,976 —
	合同会社スーパー トラスト17	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △50 51,966	短期社債 買入金銭債権	12,973 —
	合同会社スーパー トラスト18	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △25 38,978	短期社債 買入金銭債権	12,998 —
	合同会社スーパー トラスト19	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △25 38,973	短期社債 買入金銭債権	12,995 —
	合同会社スーパー トラスト20	直接 100.0%	出資 役員の兼任	CPの引受け 受益権の譲渡	※1 △25 38,974	短期社債 買入金銭債権	12,993 —

(注) (※1) CPの引受けの取引金額は純額を表示しております。

(株主資本等変動計算書関係)

自己株式の種類及び株式数に関する事項
該当事項はありません。

(有価証券関係)

貸借対照表の「国債」「地方債」「短期社債」「社債」「株式」「その他の証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金及び「買入金銭債権」中の信託受益権の一部が含まれております。

1. 売買目的有価証券(2021年3月31日現在)

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券(2021年3月31日現在)

	種類	貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が貸借対照表 計上額を超えるもの	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	短期社債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	6,200	6,243	43
	小計	6,200	6,243	43
時価が貸借対照表 計上額を超えないもの	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	短期社債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	—	—	—
合計		6,200	6,243	43

3. 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式(2021年3月31日現在)

	貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
子会社・子法人等株式	—	—	—
関連法人等株式	—	—	—
合計	—	—	—

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社・子法人等株式及び関連法人等株式

	貸借対照表計上額(百万円)
子会社・子法人等株式	18,371
関連法人等株式	—
合計	18,371

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社・子法人等株式及び関連法人等株式」には含まれておりません。

4. その他有価証券(2021年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計 上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額(百万円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	—	—	—
	債券	8,870	8,843	27
	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	短期社債	—	—	—
	社債	8,870	8,843	27
その他	27,727	27,706	20	
小計	36,597	36,550	47	
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	債券	350,956	351,281	△325
	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	短期社債	259,730	259,730	—
	社債	91,226	91,551	△325
その他	106,833	106,961	△128	
小計	457,789	458,243	△453	
合計	494,387	494,793	△406	

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

	貸借対照表計上額(百万円)
株式	—
その他	8
合計	8

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含まれておりません。

5. 当事業年度中に売却した満期保有目的の債券(自2020年4月1日至2021年3月31日)

該当事項はありません。

6. 当事業年度中に売却したその他有価証券(自2020年4月1日至2021年3月31日)

	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	—	—	—
債券	—	—	—
国債	—	—	—
地方債	—	—	—
短期社債	—	—	—
社債	51,472	296	—
その他	—	—	—
合計	51,472	296	—

7. 減損処理を行った有価証券

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は、それぞれ以下のとおりであります。

繰延税金資産	
税務上の繰越欠損金	—
貸倒引当金損金算入限度超過額	446
税務上の減価償却超過額	358
有価証券等償却	189
その他有価証券評価差額金	120
繰延ヘッジ損益	276
その他	1,554
繰延税金資産小計	2,946
評価性引当額	—
繰延税金資産合計	2,946
繰延税金負債	—
繰延税金負債合計	—
繰延税金資産との相殺	—
繰延税金資産の純額	2,946

(1株当たり情報)

1株当たりの純資産額	70,438円53銭
1株当たりの当期純利益金額	8,285円47銭

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

損益の状況

■粗利益

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
資金運用収支	57,140	55,824
役員取引等収支	△4,053	2,830
その他業務収支	4,253	4,222
業務粗利益	57,340	62,878
業務粗利益率	1.85%	1.47%

(注)「業務粗利益」は、「業務純益」に「一般貸倒引当金繰入額」及び「経費」を加算した金額を計上しております。

■業務純益

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
業務純益	26,110	28,314
実質業務純益	26,110	28,286
コア業務純益	25,851	27,990
コア業務純益（投資信託解約損益を除く。）	25,851	27,990

(注)「業務純益」は、「業務収益」から「業務費用」より「金銭の信託運用見合費用」を控除した額を差し引いて算出しております。
「実質業務純益」は、「業務純益」に「一般貸倒引当金繰入額」及び「信託勘定不良債権処理額」を加算した金額を計上しております。
「コア業務純益」は、「実質業務純益」から「国債等債券損益」を差し引いた金額を計上しております。
「コア業務純益（投資信託解約損益を除く。）」は、「コア業務純益」から「投資信託解約損益」を差し引いて算出しております。

■資金運用・調達勘定の平均残高、利息、利回り

(単位：百万円)

		平均残高		利息		利回り	
		2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
国内業務部門	資金運用勘定	3,044,716	4,194,206	59,176	58,551	1.94%	1.39%
	うち貸出金	1,024,796	1,309,773	46,445	45,371	4.53%	3.46%
	うち有価証券	410,688	401,438	482	571	0.11%	0.14%
	うち預け金	239,158	888,800	197	△219	0.08%	△0.02%
	資金調達勘定	3,340,609	4,878,673	2,080	2,904	0.06%	0.05%
	うち預金	3,132,665	4,478,973	2,081	2,891	0.06%	0.06%
国際業務部門	資金運用勘定	52,304	60,106	873	825	1.66%	1.37%
	うち貸出金	—	—	—	—	—	0.00%
	うち有価証券	13,474	28,496	45	31	0.34%	0.10%
	うち預け金	—	—	—	—	—	0.00%
	資金調達勘定	65,599	76,625	829	647	1.26%	0.84%
	うち預金	65,050	75,892	690	517	1.06%	0.68%
合計	資金運用勘定	3,097,020	4,254,313	60,049	59,377	1.93%	1.39%
	うち貸出金	1,024,796	1,309,773	46,445	45,371	4.53%	3.46%
	うち有価証券	424,163	429,935	528	602	0.12%	0.14%
	うち預け金	239,158	888,800	197	△219	0.08%	△0.02%
	資金調達勘定	3,406,208	4,955,299	2,909	3,552	0.08%	0.07%
	うち預金	3,197,716	4,554,866	2,772	3,409	0.08%	0.07%

(注) 資金調達勘定は、金銭の信託運用見合額の平均残高及び利息を控除しております。

■受取利息・支払利息の分析

(単位：百万円)

		国内業務部門		国際業務部門		合計	
		2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
受取利息	残高による増減	7,819	△2,512	△38	276	7,780	△2,235
	利率による増減	△4,508	1,886	△130	△323	△4,639	1,562
	純増減	3,310	△625	△168	△47	3,141	△672
支払利息	残高による増減	475	1,292	78	184	554	1,477
	利率による増減	0	△467	△56	△366	△56	△834
	純増減	475	824	22	△181	497	643

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、両者の増減割合に応じて按分しています。

■役務取引の状況

(単位：百万円)

	国内業務部門		国際業務部門		合計	
	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
役務取引等収益	29,001	37,736	532	613	29,534	38,350
役務取引等費用	33,472	35,369	114	149	33,587	35,519

■その他業務の状況

(単位：百万円)

	国内業務部門		国際業務部門		合計	
	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
その他業務収益	535	621	3,717	3,601	4,253	4,222
その他業務費用	—	—	—	—	—	—

■営業経費の内訳

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
給料・手当	5,393	5,174
退職給付費用	257	310
福利厚生費	782	871
減価償却費	2,667	3,131
土地建物機械賃借料	559	461
営繕費	364	347
消耗品費	547	67
給水光熱費	26	18
旅費	85	35
通信費	1,097	1,149
広告宣伝費	4,501	3,654
諸会費・寄付金・交際費	25	19
租税公課	1,690	1,739
業務委託費	3,179	4,546
販売促進費	5,080	7,559
コンサル費用	3,622	3,878
その他	1,347	1,625
合計	31,230	34,591

■利益率

	2019年度	2020年度
総資産経常利益率	0.74%	0.52%
資本経常利益率	19.44%	17.86%
総資産当期純利益率	0.51%	0.36%
資本当期純利益率	13.53%	12.47%

■利鞘

	国内業務部門		国際業務部門		合計	
	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
資金運用利回り	1.94%	1.39%	1.66%	1.37%	1.93%	1.39%
資金調達原価	0.98%	0.76%	1.78%	1.13%	1.00%	0.76%
総資金利鞘	0.96%	0.63%	△0.12%	0.24%	0.93%	0.63%

業務の状況

(預金に関する指標)

■預金科目別残高

〈期末残高〉

(単位：百万円)

	国内業務部門		国際業務部門		合計	
	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
流動性預金	3,017,147	5,242,913	35,954	43,360	3,053,102	5,286,273
定期性預金	490,912	445,208	31,619	34,056	522,531	479,265
うち固定金利定期預金	490,912	445,208	31,619	34,056	522,531	479,265
うち変動金利定期預金	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
計	3,508,059	5,688,121	67,574	77,417	3,575,634	5,765,538
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—
合計	3,508,059	5,688,121	67,574	77,417	3,575,634	5,765,538

〈平均残高〉

(単位：百万円)

	国内業務部門		国際業務部門		合計	
	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
流動性預金	2,528,597	3,980,707	34,277	42,333	2,562,875	4,023,040
定期性預金	604,067	498,265	30,773	33,559	634,841	531,825
うち固定金利定期預金	604,067	498,265	30,773	33,559	634,841	531,825
うち変動金利定期預金	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
計	3,132,665	4,478,973	65,050	75,892	3,197,716	4,554,866
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—
合計	3,132,665	4,478,973	65,050	75,892	3,197,716	4,554,866

■定期預金残存期間別残高

(単位：百万円)

2019年度	3ヶ月以下	4ヶ月以上 6ヶ月以下	7ヶ月以上 1年以下	1年超 2年以下	2年超 3年以下	3年超	合計
固定金利定期預金	171,366	67,060	225,667	16,357	2,966	7,493	490,912
変動金利定期預金	—	—	—	—	—	—	—
合計	171,366	67,060	225,667	16,357	2,966	7,493	490,912

(単位：百万円)

2020年度	3ヶ月以下	4ヶ月以上 6ヶ月以下	7ヶ月以上 1年以下	1年超 2年以下	2年超 3年以下	3年超	合計
固定金利定期預金	212,766	87,419	126,123	7,301	5,475	6,122	445,208
変動金利定期預金	—	—	—	—	—	—	—
合計	212,766	87,419	126,123	7,301	5,475	6,122	445,208

(貸出金等に関する指標)

■貸出金科目別残高

〈期末残高〉

(単位：百万円)

	国内業務部門		国際業務部門		合計	
	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
手形貸付	—	—	—	—	—	—
証書貸付	748,585	1,560,865	—	—	748,585	1,560,865
割引手形	—	—	—	—	—	—
当座貸越	366,907	334,750	—	—	366,907	334,750
合計	1,115,493	1,895,615	—	—	1,115,493	1,895,615

〈平均残高〉

(単位：百万円)

	国内業務部門		国際業務部門		合計	
	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
手形貸付	—	—	—	—	—	—
証書貸付	657,703	961,163	—	—	657,703	961,163
割引手形	—	—	—	—	—	—
当座貸越	367,092	348,609	—	—	367,092	348,609
合計	1,024,796	1,309,773	—	—	1,024,796	1,309,773

■貸出金残存期間別残高

(単位：百万円)

2019年度	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	期間の定め のないもの	合計
貸出金	17,373	22,632	38,204	23,238	1,014,043	1,115,493
うち変動金利	—	—	—	—	609,716	609,716
うち固定金利	17,373	22,632	38,204	23,238	404,326	505,776

(単位：百万円)

2020年度	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	期間の定め のないもの	合計
貸出金	658,799	27,371	39,147	23,734	1,146,562	1,895,615
うち変動金利	16,518	7,766	7,290	1	772,479	804,056
うち固定金利	642,280	19,605	31,857	23,732	374,082	1,091,559

(注) 7年超のものは期間の定めのないものに含めております。

■貸出金業種別残高

(単位：百万円)

	2019年度		2020年度	
	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比
国内	1,115,493	100.00%	1,895,615	100.00%
金融・保険業	500	0.05%	2,625	0.14%
不動産業	2,270	0.20%	3,891	0.21%
その他	1,112,722	99.75%	1,889,099	99.66%
海外	—	—	—	—
政府等	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
合計	1,115,493	100.00%	1,895,615	100.00%

■貸出金使途別内訳

(単位：百万円)

	2019年度		2020年度	
	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比
設備資金	—	—	—	—
運転資金	1,115,493	100.00%	1,895,615	100.00%
合計	1,115,493	100.00%	1,895,615	100.00%

■中小企業等に対する貸出金残高

(単位：百万円)

		2019年度	2020年度
総貸出金	①	貸出先数	560,033
		金額	1,115,493
中小企業等貸出金	②	貸出先数	560,022
		金額	1,112,774
比率	②/①	貸出先数	99.99%
		金額	99.75%

(注) 中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円）以下の会社又は常用する従業員が300人（ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人）以下の会社及び個人であります。

■楽天グループとの与信関連取引状況

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
楽天株式会社	157	182
楽天カード株式会社	1,179,199	1,355,325
楽天証券株式会社	554	606

(注) 1. 与信関連取引の範囲は、楽天グループに対する支払承諾・買入金銭債権等です。

2. 楽天カード株式会社向けの与信関連取引は、主として楽天カード株式会社をオリジネーターとする買入金銭債権の買取です。

3. 親会社及び子会社、兄弟会社のうち主要な取引先を記載しております。

■貸出金担保別残高

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
自行預金	183	5
有価証券	—	—
債権	—	—
商品	—	—
不動産	536,869	768,558
その他	—	—
小計	537,053	768,563
保証	554,625	452,625
信用	23,813	674,426
合計	1,115,493	1,895,615

■支払承諾の残高

(単位：口、百万円)

		2019年度	2020年度
手形引受	口数	—	—
	金額	—	—
信用状	口数	—	—
	金額	—	—
保証	口数	6	6
	金額	6,558	8,521
合計	口数	6	6
	金額	6,558	8,521

■支払承諾見返の担保別残高

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
有価証券	—	—
債権	—	—
商品	—	—
不動産	—	—
その他	—	—
小計	—	—
保証	—	—
信用	6,558	8,521
合計	6,558	8,521

■特定海外債権残高

該当事項はありません。

■預貸率

(単位：百万円)

区分	国内業務部門		国際業務部門		合計	
	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
預貸率						
貸出金 (A)	1,115,493	1,895,615	—	—	1,115,493	1,895,615
預金 (B)	3,508,059	5,688,121	67,574	77,417	3,575,634	5,765,538
預貸率 (A) / (B)	31.79%	33.32%	—	—	31.19%	32.87%
期中平均	32.71%	29.24%	—	—	32.04%	28.75%

■貸倒引当金内訳

(単位：百万円)

	2019年度					2020年度				
	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	890	447	—	890	447	447	419	—	447	419
個別貸倒引当金	676	217	348	—	545	545	676	181	—	1,040
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 国外についての貸倒引当金はありません。
2. 貸出金に関して該当する事項がないため、業種別又は取引相手別の分類は行っていません。

■貸出金償却額

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
合計	65	14

(有価証券及び金銭の信託等の時価等関係)

(2019年度)

満期保有目的の債券

(単位：百万円)

	種類	2019年度		
		貸借対照表計上額	時価	差額
時価が 貸借対照表計上額を 超えるもの	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	短期社債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	12,500	12,665	165
	小計	12,500	12,665	165
時価が 貸借対照表計上額を 超えないもの	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	短期社債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	—	—	—
合計		12,500	12,665	165

その他有価証券

(単位：百万円)

	種類	2019年度		
		貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	—	—	—
	債券	47,286	47,006	280
	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	短期社債	—	—	—
	社債	47,286	47,006	280
	その他	10,139	10,126	12
	小計	57,425	57,132	293
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	債券	350,642	350,757	△114
	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	短期社債	270,847	270,847	△0
	社債	79,795	79,909	△114
	その他	45,702	45,722	△19
	小計	396,345	396,480	△134
合計		453,771	453,612	158

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額
株式	—
その他	7
合計	7

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(2020年度)

満期保有目的の債券

(単位：百万円)

	種類	2020年度		
		貸借対照表計上額	時価	差額
時価が 貸借対照表計上額を 超えるもの	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	短期社債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	6,200	6,243	43
	小計	6,200	6,243	43
時価が 貸借対照表計上額を 超えないもの	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	短期社債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	—	—	—
合計		6,200	6,243	43

その他有価証券

(単位：百万円)

	種類	2020年度		
		貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	—	—	—
	債券	8,870	8,843	27
	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	短期社債	—	—	—
	社債	8,870	8,843	27
	その他	27,727	27,706	20
	小計	36,597	36,550	47
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	債券	350,956	351,281	△325
	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	短期社債	259,730	259,730	—
	社債	91,226	91,551	△325
	その他	106,833	106,961	△128
	小計	457,789	458,243	△453
合計		494,387	494,793	△406

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額
株式	—
その他	8
合計	8

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

■ 其他有価証券評価差額金

貸借対照表に計上されている其他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりです。

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
其他有価証券評価差額金	123	△271
うち繰延税金資産(△は負債)	△54	120
うち評価差額金	178	△391

■ 金銭の信託の時価等情報

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

■デリバティブ取引情報

(2019年度)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの各期末日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

金利関連取引

(単位：百万円)

		契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時 価	評価損益
金融商品 取引所	金利先物				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
	金利オプション				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
店頭	金利先渡契約				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
	金利スワップ				
	受取固定・支払変動	—	—	—	—
	受取変動・支払固定	—	—	—	—
	受取変動・支払変動	—	—	—	—
	金利スワップション	137,932	137,932	△3	△3
	売建	69,175	69,175	△405	△405
	買建	68,757	68,757	401	401
	金利オプション				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
	その他				
	売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—	
合計	—	—	△3	△3	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。
2. 時価の算定
割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。
3. 金利スワップション取引には、当行において区別して把握することが困難な金利スワップ取引を含めて表示しております。
4. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

通貨関連取引

(単位：百万円)

		契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時 価	評価損益
金融商品 取引所	通貨先物				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
	通貨オプション				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
店頭	通貨スワップ				
	為替予約	1,222,256	1,874	△1,708	△1,708
	売建	558,758	71	2,487	2,487
	買建	663,498	1,803	△4,196	△4,196
	通貨オプション	110	—	—	—
	売建	55	—	△0	△0
	買建	55	—	0	0
	その他				
	売建	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—
合計	—	—	△1,708	△1,708	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。
2. 時価の算定
為替予約取引…先物為替相場によっております。
オプション取引…割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。
3. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

株式関連取引

該当事項はありません。

債券関連取引

該当事項はありません。

商品関連取引

該当事項はありません。

クレジットデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

(2020年度)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの各期末日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

金利関連取引

(単位：百万円)

	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時 価	評価損益
金融商品				
取引所				
金利先物				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
金利オプション				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
店頭				
金利先渡契約				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
金利スワップ				
受取固定・支払変動	—	—	—	—
受取変動・支払固定	—	—	—	—
受取変動・支払変動	—	—	—	—
金利スワップション	107,444	107,444	12	12
売建	53,512	53,512	△815	△815
買建	53,931	53,931	827	827
金利オプション				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
その他				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
合計	—	—	12	12

- (注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。
2. 時価の算定
割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。
3. 金利スワップション取引には、当行において区別して把握することが困難な金利スワップ取引を含めて表示しております。
4. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

通貨関連取引

(単位：百万円)

	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時 価	評価損益
金融商品				
取引所				
通貨先物				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
通貨オプション				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
店頭				
通貨スワップ				
為替予約	1,066,764	516	5,973	5,973
売建	519,233	79	528	528
買建	547,530	436	5,445	5,445
通貨オプション	314	—	—	—
売建	157	—	△0	△0
買建	157	—	0	0
その他				
売建	—	—	—	—
買建	—	—	—	—
合計	—	—	5,973	5,973

- (注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。
2. 時価の算定
為替予約取引…先物為替相場によっております。
オプション取引…割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。
3. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

株式関連取引

該当事項はありません。

債券関連取引

該当事項はありません。

商品関連取引

該当事項はありません。

クレジットデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

(有価証券に関する指標)

■有価証券残高

〈期末残高〉

(単位：百万円)

	国内業務部門		国際業務部門		合計	
	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
国債	—	—	—	—	—	—
地方債	—	—	—	—	—	—
短期社債	270,847	259,730	—	—	270,847	259,730
社債	127,081	100,096	—	—	127,081	100,096
株式	491	491	—	—	491	491
その他の証券	7	8	12,717	24,284	12,725	24,292
合計	398,428	360,326	12,717	24,284	411,146	384,610

〈平均残高〉

(単位：百万円)

	国内業務部門		国際業務部門		合計	
	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
国債	—	—	—	—	—	—
地方債	—	—	—	—	—	—
短期社債	299,330	288,507	—	—	299,330	288,507
社債	110,859	112,431	—	—	110,859	112,431
株式	491	491	—	—	491	491
その他の証券	7	8	13,474	28,496	13,482	28,505
合計	410,688	401,438	13,474	28,496	424,163	429,935

■有価証券残存期間別残高

(単位：百万円)

2019年度	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
国債	—	—	—	—
地方債	—	—	—	—
短期社債	270,847	—	—	—
社債	25,302	3,310	98,468	—
その他	6,517	6,200	—	7
合計	302,667	9,510	98,468	7

(単位：百万円)

2020年度	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
国債	—	—	—	—
地方債	—	—	—	—
短期社債	259,730	—	—	—
社債	67	4,245	95,783	—
その他	4,503	1,900	—	8
合計	264,300	6,145	95,783	8

■有価証券の預金に対する比率

(単位：百万円)

		国内業務部門		国際業務部門		合 計	
		2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
預証率	有価証券 (A)	398,428	360,326	12,717	24,284	411,146	384,610
	預金 (B)	3,508,059	5,688,121	67,574	77,417	3,575,634	5,765,538
	預証率 (A)／(B)	11.35%	6.33%	18.82%	31.36%	11.49%	6.67%
	期中平均	13.10%	8.96%	20.71%	37.54%	13.26%	9.43%

■商品有価証券平均残高

該当事項はありません。

リスク管理債権、金融再生法開示債権

■銀行法に基づくリスク管理債権

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
破綻先債権	14	14
延滞債権	1,046	1,460
3カ月以上延滞債権	—	12
貸出条件緩和債権	—	9
合計	1,061	1,497

■金融再生法に基づく開示債権

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	14	14
危険債権	1,083	1,496
要管理債権	—	22
正常債権	1,129,260	1,912,182
合計	1,130,359	1,913,715

(注) 上記は、金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づくものです。

自己資本比率規制の第3の柱(市場規律)に基づく開示

本資料は、「銀行法施行規則(昭和57年大蔵省令第10号)第19条の2第1項第5号二等の規定に基づき、自己資本の充実の状況等について金融庁長官が別に定める事項(平成26年2月18日付金融庁告示第7号)」に基づいて作成したディスクロージャー資料です。

自己資本比率の算出に当たっては、新国内基準を適用の上、信用リスク・アセットの算出については標準的手法を、オペレーショナル・リスク相当額に係る額の算出については粗利益配分手法をそれぞれ採用しております。

自己資本の構成に関する開示事項

■単体自己資本比率

(単位：百万円)

項目	2020年度末	2019年度末
コア資本に係る基礎項目		
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	166,392	146,925
うち、資本金及び資本剰余金の額	28,422	28,422
うち、利益剰余金の額	137,970	118,503
うち、自己株式の額(△)	—	—
うち、社外流出予定額(△)	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	419	447
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	419	447
うち、適格引当金コア資本算入額	—	—
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
適格旧資本調達手段のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
公的機関による資本増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額(A)	166,811	147,372
コア資本に係る調整項目		
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く)の額の合計額	7,001	6,428
うち、のれんに係るものの額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	7,001	6,428
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く)の額	—	—
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
前払年金費用の額	—	—
自己保有普通株式等(純資産の部に計上されているものを除く)の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	—	—
特定項目に係る十パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る)に関連するものの額	—	—
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る)に関連するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額(B)	7,001	6,428
自己資本		
自己資本の額(C) = (A) - (B)	159,810	140,943
リスク・アセット等		
信用リスク・アセットの額の合計額(D)	1,411,250	1,266,130
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額(E)	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額(F)	109,935	98,381
信用リスク・アセット調整額(G)	—	—
オペレーショナル・リスク相当額調整額(H)	—	—
リスク・アセット等の額の合計額(I) = (D) + (E) + (F) + (G) + (H)	1,521,186	1,364,511
自己資本比率		
自己資本比率(国内基準) = (C) / (I) × 100 (%)	10.50%	10.32%

自己資本の構成に関する開示事項

■連結自己資本比率

(単位：百万円)

項目	2020年度末	2019年度末
コア資本に係る基礎項目		
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	167,405	148,168
うち、資本金及び資本剰余金の額	28,422	28,422
うち、利益剰余金の額	138,982	119,746
うち、自己株式の額(△)	—	—
うち、社外流出予定額(△)	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額	1,466	—
うち、為替換算調整勘定	1,508	—
うち、退職給付に係るものの額	△42	—
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	—	—
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	63	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	419	447
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	419	447
うち、適格引当金コア資本算入額	—	—
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
適格旧資本調達手段のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
公的機関による資本増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	13,334	—
コア資本に係る基礎項目の額(A)	182,688	148,615
コア資本に係る調整項目		
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く)の額の合計額	9,819	6,597
うち、のれんに係るものの額	132	168
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	9,687	6,429
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く)の額	244	—
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
退職給付に係る資産の額	—	—
自己保有普通株式等(純資産の部に計上されているものを除く)の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	—	—
特定項目に係る十パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る)に関連するものの額	—	—
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る)に関連するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額(B)	10,064	6,597
自己資本		
自己資本の額(C) = (A) - (B)	172,624	142,018
リスク・アセット等		
信用リスク・アセットの額の合計額(D)	1,368,274	1,239,596
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額(E)	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額(F)	111,215	99,470
信用リスク・アセット調整額(G)	—	—
オペレーショナル・リスク相当額調整額(H)	—	—
リスク・アセット等の額の合計額(I) = (D) + (E) + (F) + (G) + (H)	1,479,489	1,339,067
連結自己資本比率		
連結自己資本比率(国内基準) = (C) / (I) × 100 (%)	11.66%	10.60%

定性的な開示事項

以下に記載しております定性的な開示項目について、連結と単体の開示内容に差異のない項目につきましては、単体の記載をもって連結グループの説明とさせていただきます。

一 連結の範囲に関する事項

- 自己資本比率告示第26条の規定により連結自己資本比率を算出する対象となる会社の集団(以下「連結グループ」という。)に属する会社と会計連結範囲に含まれる会社との相違点及び当該相違点の生じた原因
連結グループに属する会社と会計連結範囲に含まれる会社に相違点はありません。
- 連結グループのうち、連結子会社の数、並びに主要な連結子会社の名称及び主要な業務の内容
2019年度の連結グループに属する連結子会社は22社であります。
2020年度の連結グループに属する連結子会社は23社であります。

主要な連結子会社の名称	主要な業務の内容
楽天信託株式会社	信託業務
楽天国際商業銀行股份有限公司	銀行業務

- 自己資本比率告示第32条が適用される金融業務を営む関連法人等の数並びに当該金融業務を営む関連法人等の名称、貸借対照表の総資産の額及び純資産の額並びに主要な業務の内容
当該金融業務を営む関連法人等はありません。
- 連結グループに属する会社であって会計連結範囲に含まれないもの及び連結グループに属しない会社であって会計連結範囲に含まれるものの名称、貸借対照表の総資産の額及び純資産の額並びに主要な業務の内容
該当ありません。
- 連結グループ内の資金及び自己資本の移動に係る制限等の概要
連結子会社において、債務超過会社はなく、自己資本は充実しております。また、連結グループ内において自己資本にかかる支援は行っておりません。

二 自己資本調達手段の概要

普通株式により資本調達を行っております。普通株式の株主は楽天カード株式会社(持株比率100%)です。

三 自己資本の充実度に関する評価方法の概要

各種リスクに対して資本配賦を行い、当該配賦額を超過するリスクを保有することが無いようモニタリングを行っております。なお、自己資本の充実度に関する評価方法の詳細につきましては、本編業務運営の状況の「リスク管理態勢の整備の状況」(27ページ)をご参照ください。

四 信用リスクに関する事項

イ リスク管理の方針及び手続の概要

(1) リスクを確実に認識し、評価・計測し、報告するための態勢

信用リスクに関する基本方針を「信用リスク管理規程」「信用リスク管理細則」及び「金融商品リスク管理事務基準」に規定し、これを遵守しております。なお、リスク管理態勢の詳細につきましては、本編業務運営の状況の「リスク管理態勢の整備の状況」(27ページ)をご参照ください。

(2) 貸倒引当金の計上基準

貸倒引当金の計上基準に関しましては、単体情報 財務諸表 重要な会計方針 -2020年度- 5. 引当金の計上基準(8ページ)をご参照ください。

ロ 標準的手法が適用されるポートフォリオに関する事項

(1) リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関等の名称

以下の4社をリスク・ウェイトの判定に使用しております。

- ・株式会社格付投資情報センター(以下「R&I」という。)
- ・株式会社日本格付研究所(以下「JCR」という。)
- ・ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク(以下「Moody's」という。)
- ・S&P グローバル・レーティング(以下「S&P」という。)

(2) エクスポージャーの種類ごとのリスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関等の名称

以下の4社をリスク・ウェイトの判定に使用しております。

- ・R&I、JCR、Moody's、S&P

エクスポージャーの種類毎に特定の適格格付機関を分別使用する方針はとっておりません。

五 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

保証等を活用することにより信用リスク削減に努めることとしております。元本保証商品において、被保証債務が元本のみである場合には、元本以外の関連債務は保証されていないものとして認識し、元本部分についてのみ信用リスク削減効果を適用しております。なお、リスク管理態勢の詳細につきましては、本編業務運営の状況の「リスク管理態勢の整備の状況」(27ページ)をご参照ください。

六 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関するリスク管理の方針及び手続の概要

派生商品取引に関しては、リスク極小化を目的に適正にヘッジを実施しております。派生商品の取引相手に関する与信額については、他の取引にかかる与信額と合算し管理する方針としており、当該与信額については、適宜、担保による保全をすすめております。

なお、長期決済期間取引(有価証券等の約定日から受渡しまたは決済の期日までの期間が一定の期間を超える取引)はございません。

七 証券化エクスポージャーに関する事項

イ リスク管理の方針及びリスク特性の概要

証券化エクスポージャーに関するリスク管理態勢として、信用リスクに関する基本方針を「信用リスク管理規程」及び「信用リスク管理細則」に規定し、これを遵守しております。なお、リスク管理態勢の詳細につきましては、本編業務運営の状況の「リスク管理態勢の整備の状況」(27ページ)をご参照ください。

ロ 自己資本比率告示第248条第1項第1号から第4号までに規定する体制の整備及びその運用状況の概要

証券化エクスポージャーについては再証券化エクスポージャーも含め、運用開始時のリスク・ウェイトの算定の他、包括的なリスク特性にかかる情報、パフォーマンス評価、商品特性のモニタリングについて「自己資本管理規程」等及び「信用リスク管理規程」等に規定し、これを遵守しております。

ハ 信用リスク削減手法として証券化取引を用いる場合の方針

信用リスク削減手法として証券化取引を用いていないため、特段規定はございません。

ニ 証券化エクスポージャーの信用リスク・アセットの額の算出に使用する方式の名称

外部格付準拠方式及び標準的手法準拠方式を利用しております。

ホ 証券化エクスポージャーのマーケット・リスク相当額の算出に使用する方式の名称

マーケット・リスクにかかる額は算入しておりません。

ヘ 銀行が証券化目的導管体を用いて第三者の資産にかかる証券化取引を行った場合には、当該証券化目的導管体の種類及び当該銀行が当該証券化取引にかかる証券化エクスポージャーを保有しているかどうかの別

当該証券化取引は行っておりません。

ト 銀行の子法人等(連結子法人等を除く。)及び関連法人等のうち、当該銀行が行った証券化取引(銀行が証券化目的導管体を用いて行った証券化取引を含む。)にかかる証券化エクスポージャーを保有しているものの名称

該当事項はありません。

チ 証券化取引に関する会計方針

金融商品に関する会計基準に従い、それぞれの金融資産について規定された会計処理を適正に行っております。

リ 証券化エクスポージャーの種類ごとのリスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関の名称(使用する適格格付機関を変更した場合には、その理由を含む。)

以下の4社をリスク・ウェイトの判定に使用しております。

・ R&I、JCR、Moody's、S&P

証券化エクスポージャーの種類毎に特定の適格格付機関を分別使用する方針は採用しておりません。

ヌ 内部評価方式を用いている場合には、その概要

内部評価方式は用いておりません。

ル 定量的な情報に重要な変更が生じた場合には、その内容

重要な変更はございません。

八 マーケット・リスクに関する事項

自己資本比率算定式の分母であるマーケット・リスク相当額の合計額については自己資本比率告示第39条の定めに従い、マーケット・リスク相当額不算入の特例を用いておりますので、該当事項はありません。

九 オペレーショナル・リスクに関する事項

イ リスク管理の方針及び手続の概要

オペレーショナル・リスクには、事務リスク、情報セキュリティリスク、システムリスク、レピュテーションリスク、及びコンプライアンスリスク等がありますが、これらについて担当各部署が月次でリスク管理委員会に報告し、問題点を分析・評価の上、対処方法等を協議しております。さらに、必要に応じて取締役会に付議し改善策を実施する態勢をとっております。なお、リスク管理態勢の詳細につきましては、本編業務運営の状況の「リスク管理態勢の整備の状況」(27ページ)をご参照ください。

ロ オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用する手法の名称

粗利益配分手法を採用しております。

十 出資等又は株式等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

信用リスクに関する基本方針を「信用リスク管理規程」「信用リスク管理細則」及び「金融商品リスク管理事務基準」に規定し、これを遵守しております。なお、リスク管理態勢の詳細につきましては、本編業務運営の状況の「リスク管理態勢の整備の状況」(27ページ)をご参照ください。

リスク管理方針においては、その他有価証券、子会社株式及び関連会社株式の区分を行っておりませんが、出資等又は株式等については、他の資産と同様に半期毎に当行自らが行う資産査定の対象となっており、この自己査定での確認事項と併せ、出資等又は株式等エクスポージャーに関するリスクを、当行のリスク管理態勢において包括的に管理する態勢を構築しております。

株式等エクスポージャーの評価は、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券のうち時価のあるものについては、決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

十一 金利リスクに関する事項

イ リスク管理の方針及び手続の概要

当行及び子会社が保有する全ての金利感応資産・負債を対象として金利リスクを計測し、管理しております。

金利リスクの計測は、銀行勘定の金利リスクを Δ EVE(金利ショックに対する経済的価値の減少額)、 Δ NII(金利ショックに対する金利収入の減少額)、また資産面の価値減少リスクに対しては、VaR(バリュー・アット・リスク)、BPV(ベースス・ポイント・バリュー)といった指標により、月次で計測し、ALM委員会、リスク管理委員会及び経営会議・取締役会に報告しております。

Δ EVEは第2の柱における早期警戒制度に定める水準に収まるよう管理し、VaRは配賦資本の範囲内に収まるように管理しております。

なお、金利リスクをコントロールする際は、有価証券の購入・売却あるいはヘッジ取引等を行う方針としております。

ロ 金利リスクの算定手法の概要

・流動性預金に割り当てられた金利改定の平均満期

単体：0.995年、連結：0.993年となっております。

- ・流動性預金に割り当てられた最長の金利改定満期
5年としております。
- ・流動性預金への満期の割当て方法及びその前提
円貨流動性預金のうち、引き出されることなく長期間銀行に滞留する預金をコア預金とし、内部モデルを利用して計算しております。
- ・固定金利貸出の期限前償還や定期預金の早期解約に関する前提
固定金利貸出の期限前償還については保守的な前提を反映して計算しており、定期預金の早期解約については内部モデルを利用して計算しております。
- ・複数の通貨の集計方法及びその前提
 Δ EVEが正となる通貨のみを単純合算しております。
- ・スプレッドに関する前提
算定の前提となるキャッシュフロー作成時の金利にはスプレッドが含まれておりますが、その変動は考慮しておりません。
- ・内部モデルの使用等、 Δ EVE及び Δ NIIに重大な影響を及ぼすその他の前提
コア預金モデル、定期預金の早期解約の計算については、過去の実績データを用いているため、実績値が大きく変動した場合に、 Δ EVEに大きな影響を及ぼす可能性があります。
- ・前事業年度末の開示からの変動に関する説明
金利リスクの算定における前提に変動はありません。
- ・計測値の解釈や重要性に関するその他の説明
 Δ EVEはコア資本額の20%以内に収まっており、問題ない水準となっております。

定量的な開示事項

- 一 その他金融機関等(自己資本比率告示第29条第6項第1号に規定するその他金融機関等をいう。)であって銀行の子法人等であるもののうち、自己資本比率規制上の所要自己資本を下回った会社の名称、所要自己資本を下回った額の総額

該当ありません。

二 自己資本の充実度に関する事項

- イ 信用リスクに対する所要自己資本の額及びこのうち次に掲げるポートフォリオごとの額
- ・標準的手法が適用されるポートフォリオ及び標準的手法が複数のポートフォリオに適用される場合の適切なポートフォリオの区分ごとの内訳
 - ・証券化エクスポージャー
- ロ オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額及びこのうち銀行が使用する手法ごとの額
- ハ 総所要自己資本額

自己資本の充実度に係る事項(単体)

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
信用リスクに対する所要自己資本の額	50,382	55,925
標準的手法が適用されるポートフォリオ	25,729	27,706
現金	—	—
我が国の中央政府及び中央銀行向け	—	—
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—
国際決済銀行等向け	—	—
我が国の地方公共団体向け	—	—
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—
国際開発銀行向け	—	—
地方公共団体金融機構向け	—	—
我が国の政府関係機関向け	65	32
地方三公社向け	—	—
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	1,214	830
法人等向け	1,216	1,426
中小企業等向け及び個人向け	13,843	13,719
抵当権付住宅ローン	7,600	9,754
不動産取得等事業向け	—	—
三月以上延滞等	3	7
取立未済手形	—	—
信用保証協会等による保証付	—	—
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—
出資等	19	734
（うち出資等のエクスポージャー）	19	734
（うち重要な出資のエクスポージャー）	—	—
上記以外	1,657	1,099
（うち他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通株式等に該当するものの以外のものに係るエクスポージャー）	—	—
（うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー）	494	563
（うち右記以外のエクスポージャー）	1,162	535
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算（ルック・スルー方式）	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算（マンドレート方式）	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算（蓋然性方式250%）	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算（蓋然性方式400%）	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算（フォールバック方式）	108	101
経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	—	—
証券化エクスポージャー	24,652	28,219
証券化（オリジネーターの場合）	—	—
（うち再証券化）	—	—
証券化（オリジネーター以外の場合）	24,652	28,219
（うち再証券化）	—	—
オフ・バランス取引等に対する所要自己資本の額	135	339
CVAリスクに対する所要自己資本の額	127	184
中央清算機関関連エクスポージャーに対する所要自己資本の額	—	—
マーケット・リスクに対する所要自己資本の額	—	—
オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額	3,935	4,397
粗利益配分手法	3,935	4,397
総所要自己資本額	54,580	60,847

自己資本の充実度に係る事項(連結)

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
信用リスクに対する所要自己資本の額	49,321	54,042
標準的手法が適用されるポートフォリオ	25,681	27,148
現金	—	—
我が国の中央政府及び中央銀行向け	—	—
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—
国際決済銀行等向け	—	—
我が国の地方公共団体向け	—	—
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—
国際開発銀行向け	—	—
地方公共団体金融機構向け	—	—
我が国の政府関係機関向け	65	32
地方三公社向け	—	—
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	1,219	836
法人等向け	1,216	1,425
中小企業等向け及び個人向け	13,843	13,719
抵当権付住宅ローン	7,600	9,754
不動産取得等事業向け	—	—
三月以上延滞等	3	7
取立未済手形	—	—
信用保証協会等による保証付	—	—
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—
出資等	0	8
（うち出資等のエクスポージャー）	0	8
（うち重要な出資のエクスポージャー）	—	—
上記以外	1,624	1,261
（うち他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通株式等に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー）	—	—
（うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー）	497	693
（うち右記以外のエクスポージャー）	1,126	568
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算（ルック・スルー方式）	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算（マンドート方式）	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算（蓋然性方式250%）	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算（蓋然性方式400%）	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算（フォールバック方式）	108	101
経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	—	—
証券化エクスポージャー	23,639	26,894
証券化（オリジネーターの場合）	—	—
うち再証券化	—	—
証券化（オリジネーター以外の場合）	23,639	26,894
うち再証券化	—	—
オフ・バランス取引等に対する所要自己資本の額	135	504
CVAリスクに対する所要自己資本の額	127	184
中央清算機関関連エクスポージャーに対する所要自己資本の額	—	—
マーケット・リスクに対する所要自己資本の額	—	—
オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額	3,978	4,448
粗利益配分手法	3,978	4,448
総所要自己資本額	53,562	59,179

三 信用リスク(リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く。)に関する事項

イ 信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高及びエクスポージャーの主な種類別の内訳

ロ 信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高のうち、次に掲げる区分ごとの額及びそれらのエクスポージャーの主な種類別の内訳

信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高(単体)

(単位：百万円)

	2019年度			
	信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高			
		うち債券	うち金融派生商品	うち貸出金およびオフバランス取引
国内業種別	農業・林業	—	—	—
	漁業	—	—	—
	鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—
	建設業	—	—	—
	製造業	12,198	2,999	9,199
	電気・ガス・熱供給・水道業	1,125	—	1,125
	情報通信業	100	—	100
	運輸業・郵便業	9,486	9,486	—
	卸売業・小売業	710	70	640
	金融業・保険業	1,677,271	125,104	1,549,085
	不動産業・物品賃貸業	3,170	—	3,170
	学術研究・専門・技術サービス業	253	—	253
	宿泊業・飲食サービス業	109	—	109
	生活関連サービス業・娯楽業	75	—	75
	教育・学習支援業	—	—	—
	医療・福祉	58	—	58
	複合サービス事業	—	—	—
	その他のサービス	20,097	8	20,089
	公務	12,536	12,500	36
	その他	36,221	—	36,221
	個人向け	1,142,375	—	1,142,375
	計	2,915,789	150,169	2,762,539
国外		7,768	217	7,550
	計	2,923,558	150,387	2,762,539
残存期間別	1年以下	1,608,369	10,999	1,591,033
	1年超	1,315,189	139,387	1,171,505
	計	2,923,558	150,387	2,762,539

(注) 期末残高がその期のリスク・ポジションから大幅に乖離していないため、期中平均残高は算出しておりません。

(単位：百万円)

	2020年度			
	信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高			
		うち債券	うち金融派生商品	うち貸出金および オフバランス取引
国内業種別				
農業・林業	—	—	—	—
漁業	—	—	—	—
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—	—
建設業	—	—	—	—
製造業	169	—	—	169
電気・ガス・熱供給・水道業	1,044	—	—	1,044
情報通信業	531	—	—	531
運輸業・郵便業	2,054	2,054	—	—
卸売業・小売業	7,295	50	—	7,245
金融業・保険業	3,075,612	98,712	1,564	2,975,335
不動産業・物品賃貸業	4,791	—	—	4,791
学術研究・専門・技術サービス業	289	—	—	289
宿泊業・飲食サービス業	46	—	—	46
生活関連サービス業・娯楽業	—	—	—	—
教育・学習支援業	—	—	—	—
医療・福祉	—	—	—	—
複合サービス事業	—	—	—	—
その他のサービス	21,433	9	—	21,424
公務	636,313	6,200	—	630,113
その他	18,638	—	—	18,638
個人向け	1,205,543	—	—	1,205,543
計	4,973,764	107,027	1,564	4,865,172
国外	31,756	18,083	13,672	—
計	5,005,520	125,111	15,237	4,865,172
残存期間別				
1年以下	3,622,507	—	14,041	3,608,466
1年超	1,383,013	125,111	1,196	1,256,706
計	5,005,520	125,111	15,237	4,865,172

(注) 期末残高がその期のリスク・ポジションから大幅に乖離していないため、期中平均残高は算出しておりません。

信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高(連結)

(単位：百万円)

	2019年度			
	信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高			
		うち債券	うち金融派生商品	うち貸出金および オフバランス取引
国内業種別				
農業・林業	—	—	—	—
漁業	—	—	—	—
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—	—
建設業	—	—	—	—
製造業	12,198	2,999	—	9,199
電気・ガス・熱供給・水道業	1,125	—	—	1,125
情報通信業	100	—	—	100
運輸業・郵便業	9,486	9,486	—	—
卸売業・小売業	710	70	—	640
金融業・保険業	1,677,491	124,614	3,081	1,549,795
不動産業・物品賃貸業	3,170	—	—	3,170
学術研究・専門・技術サービス業	253	—	—	253
宿泊業・飲食サービス業	109	—	—	109
生活関連サービス業・娯楽業	75	—	—	75
教育・学習支援業	—	—	—	—
医療・福祉	58	—	—	58
複合サービス事業	—	—	—	—
その他のサービス	20,093	8	—	20,084
公務	12,536	12,500	—	36
その他	35,321	—	—	35,321
個人向け	1,142,375	—	—	1,142,375
計	2,915,106	149,679	3,081	2,762,344
国外	7,768	217	7,550	—
計	2,922,874	149,897	10,632	2,762,344
残存期間別				
1年以下	1,609,153	10,999	6,336	1,591,817
1年超	1,313,721	138,898	4,295	1,170,527
計	2,922,874	149,897	10,632	2,762,344

(注) 期末残高がその期のリスク・ポジションから大幅に乖離していないため、期中平均残高は算出しておりません。

(単位：百万円)

	2020年度				
	信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高				
		うち債券	うち金融派生商品	うち貸出金および オフバランス取引	
国内 業種別	農業・林業	—	—	—	
	漁業	—	—	—	
	鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—	
	建設業	—	—	—	
	製造業	169	—	—	169
	電気・ガス・熱供給・水道業	1,044	—	—	1,044
	情報通信業	531	—	—	531
	運輸業・郵便業	2,054	2,054	—	—
	卸売業・小売業	7,295	50	—	7,245
	金融業・保険業	3,075,831	98,223	1,564	2,976,043
	不動産業・物品賃貸業	4,791	—	—	4,791
	学術研究・専門・技術サービス業	289	—	—	289
	宿泊業・飲食サービス業	46	—	—	46
	生活関連サービス業・娯楽業	—	—	—	—
	教育・学習支援業	—	—	—	—
	医療・福祉	—	—	—	—
	複合サービス事業	—	—	—	—
	その他のサービス	21,424	9	—	21,414
	公務	636,354	6,200	—	630,154
	その他	17,789	—	—	17,789
	個人向け	1,272,458	—	—	1,272,458
	計	5,040,081	106,537	1,564	4,931,979
	国外	15,778	1,198	13,672	908
計	5,055,860	107,735	15,237	4,932,887	
残存期間別	1年以下	3,625,084	776	14,041	3,610,266
	1年超	1,430,775	106,958	1,196	1,322,621
	計	5,055,860	107,735	15,237	4,932,887

(注) 期末残高がその期のリスク・ポジションから大幅に乖離していないため、期中平均残高は算出しておりません。

ハ 3か月以上延滞エクスポージャーの期末残高又はデフォルトしたエクスポージャーの期末残高及びこれらの地域別、業種別、取引相手別の区分ごとの内訳

三月以上延滞エクスポージャーの期末残高又はデフォルトしたエクスポージャーの期末残高(単体) (単位：百万円)

		2019年度	2020年度
		三月以上延滞又はデフォルトしたエクスポージャーの期末残高	三月以上延滞又はデフォルトしたエクスポージャーの期末残高
地域別	国内	134	323
	国外	—	—
	計	134	323
業種別又は 取引相手の別	農業・林業	—	—
	漁業	—	—
	鉱業・採石業・砂利採取業	—	—
	建設業	—	—
	製造業	—	—
	電気・ガス・熱供給・水道業	—	—
	情報通信業	—	—
	運輸業・郵便業	—	—
	卸売業・小売業	—	—
	金融業・保険業	—	—
	不動産業・物品賃貸業	—	—
	学術研究・専門・技術サービス業	—	—
	宿泊業・飲食サービス業	—	—
	生活関連サービス業・娯楽業	—	—
	教育・学習支援業	—	—
	医療・福祉	—	—
	複合サービス事業	—	—
	その他のサービス	—	—
	公務	—	—
	その他	—	—
	個人向け	134	323
	計	134	323

三月以上延滞エクスポージャーの期末残高又はデフォルトしたエクスポージャーの期末残高(連結) (単位:百万円)

		2019年度	2020年度
		三月以上延滞又はデフォルトした エクスポージャーの期末残高	三月以上延滞又はデフォルトした エクスポージャーの期末残高
地域別	国内	134	323
	国外	—	—
	計	134	323
業種別又は 取引相手の別	農業・林業	—	—
	漁業	—	—
	鉱業・採石業・砂利採取業	—	—
	建設業	—	—
	製造業	—	—
	電気・ガス・熱供給・水道業	—	—
	情報通信業	—	—
	運輸業・郵便業	—	—
	卸売業・小売業	—	—
	金融業・保険業	—	—
	不動産業・物品賃貸業	—	—
	学術研究・専門・技術サービス業	—	—
	宿泊業・飲食サービス業	—	—
	生活関連サービス業・娯楽業	—	—
	教育・学習支援業	—	—
	医療・福祉	—	—
	複合サービス事業	—	—
	その他のサービス	—	—
	公務	—	—
	その他	—	—
	個人向け	134	323
	計	134	323

二 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金及び特定海外債権引当勘定の期末残高及び期中の増減額

一般貸倒引当金、個別貸倒引当金及び特定海外債権引当勘定の期末残高及び期中の増減額 (単体)

(単位：百万円)

	2019年度					2020年度				
	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	890	447	—	890	447	447	419	—	447	419
個別貸倒引当金	676	296	427	—	545	545	694	199	—	1,040
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

一般貸倒引当金、個別貸倒引当金及び特定海外債権引当勘定の期末残高及び期中の増減額 (連結)

(単位：百万円)

	2019年度					2020年度				
	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	890	447	—	890	447	447	419	—	447	419
個別貸倒引当金	777	195	427	—	545	545	694	199	—	1,040
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ホ 業種別又は取引相手の別の貸出金償却の額

業種別又は取引相手の別の貸出金償却の額 (単体)

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
農業・林業	—	—
漁業	—	—
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—
建設業	—	—
製造業	—	—
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—
情報通信業	—	—
運輸業・郵便業	—	—
卸売業・小売業	—	—
金融業・保険業	—	—
業種別又は 取引相手の別		
不動産業・物品賃貸業	—	—
学術研究・専門・技術サービス業	—	—
宿泊業・飲食サービス業	—	—
生活関連サービス業・娯楽業	—	—
教育・学習支援業	—	—
医療・福祉	—	—
複合サービス事業	—	—
その他のサービス	—	—
公務	—	—
その他	—	—
個人向け	427	199
計	427	199

業種別又は取引相手の別の貸出金償却の額(連結)

(単位:百万円)

	2019年度	2020年度
農業・林業	—	—
漁業	—	—
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—
建設業	—	—
製造業	—	—
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—
情報通信業	—	—
運輸業・郵便業	—	—
卸売業・小売業	—	—
金融業・保険業	—	—
業種別又は 取引相手の別		
不動産業・物品賃貸業	—	—
学術研究・専門・技術サービス業	—	—
宿泊業・飲食サービス業	—	—
生活関連サービス業・娯楽業	—	—
教育・学習支援業	—	—
医療・福祉	—	—
複合サービス事業	—	—
その他のサービス	—	—
公務	—	—
その他	—	—
個人向け	427	199
計	427	199

- ハ 標準的手法が適用されるエクスポージャーについて、リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高、並びに自己資本比率告示第79条の5第2項第2号、第177条の2第2項第2号、第248条（自己資本比率告示第125条及び第127条において準用する場合に限る。）並びに第248条の4第1項第1号及び第2号（自己資本比率告示第125条及び第127条において準用する場合に限る。）の規定により1,250%のリスク・ウェイトが適用されるエクスポージャーの額

標準的手法が適用されるエクスポージャーについて、リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高(単体)

(単位:百万円)

リスク・ウェイトの区分	2019年度			2020年度		
	うち、格付有り	うち、格付無し		うち、格付有り	うち、格付無し	
0%	1,121,457	—	1,121,457	3,377,461	—	3,377,461
0%超100%以下	1,380,529	171,251	1,209,278	1,434,484	92,312	1,342,172
100%超1,250%未満	4,948	—	4,948	—	—	—
1,250%	217	—	217	203	—	203

標準的手法が適用されるエクスポージャーについて、リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高(連結)

(単位:百万円)

リスク・ウェイトの区分	2019年度			2020年度		
	うち、格付有り	うち、格付無し		うち、格付有り	うち、格付無し	
0%	1,121,480	—	1,121,480	3,379,208	1,684	3,377,523
0%超100%以下	1,379,823	171,961	1,207,861	1,416,190	93,021	1,323,168
100%超1,250%未満	4,977	—	4,977	—	—	—
1,250%	217	—	217	203	—	203

四 信用リスク削減手法に関する事項

- イ 標準的手法又は基礎的内部格付手法(内部格付手法のうち、事業法人向けエクスポージャーについてLGD及びEADの自行推計値を用いない手法をいう。以下同じ。)が適用されるポートフォリオについて、適格金融資産担保、適格資産担保ごとの信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額
- ロ 標準的手法又は内部格付手法が適用されるポートフォリオについて、保証又はクレジットデリバティブが適用されたエクスポージャーの額

信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額(単体)

(単位：百万円)

	2019年度		2020年度	
	適格金融資産担保	保証・クレジット デリバティブ	適格金融資産担保	保証・クレジット デリバティブ
標準的手法が適用されるポートフォリオ	—	386,065	—	330,172
現金	—	—	—	—
我が国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	—	—	—	—
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—
国際開発銀行向け	—	—	—	—
地方公共団体金融機構向け	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—
地方三公社向け	—	—	—	—
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	—	—	—	—
法人等向け	—	—	—	—
中小企業等向け及び個人向け	—	386,065	—	330,172
抵当権付住宅ローン	—	—	—	—
不動産取得等事業向け	—	—	—	—
三月以上延滞等	—	—	—	—
取立未済手形	—	—	—	—
信用保証協会等による保証付	—	—	—	—
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—
出資等	—	—	—	—
(うち出資等のエクスポージャー)	—	—	—	—
(うち重要な出資のエクスポージャー)	—	—	—	—
上記以外	—	—	—	—
(うち他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通株式等に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー)	—	—	—	—
(うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー)	—	—	—	—
(うち右記以外のエクスポージャー)	—	—	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算(ルック・スルー方式)	—	—	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算(マンドート方式)	—	—	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算(蓋然性方式250%)	—	—	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算(蓋然性方式400%)	—	—	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算(フォールバック方式)	—	—	—	—
経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	—	—	—	—
証券化エクスポージャー	—	—	—	—
証券化(オリジネーターの場合)	—	—	—	—
うち再証券化	—	—	—	—
証券化(オリジネーター以外の場合)	—	—	—	—
うち再証券化	—	—	—	—

信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額(連結)

(単位:百万円)

	2019年度		2020年度	
	適格金融資産担保	保証・クレジット デリバティブ	適格金融資産担保	保証・クレジット デリバティブ
標準的手法が適用されるポートフォリオ	—	386,065	—	330,172
現金	—	—	—	—
我が国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	—	—	—	—
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—
国際開発銀行向け	—	—	—	—
地方公共団体金融機構向け	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—
地方三公社向け	—	—	—	—
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	—	—	—	—
法人等向け	—	—	—	—
中小企業等向け及び個人向け	—	386,065	—	330,172
抵当権付住宅ローン	—	—	—	—
不動産取得等事業向け	—	—	—	—
三月以上延滞等	—	—	—	—
取立未済手形	—	—	—	—
信用保証協会等による保証付	—	—	—	—
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—
出資等	—	—	—	—
（うち出資等のエクスポージャー）	—	—	—	—
（うち重要な出資のエクスポージャー）	—	—	—	—
上記以外	—	—	—	—
（うち他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通株式等に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー）	—	—	—	—
（うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー）	—	—	—	—
（うち右記以外のエクスポージャー）	—	—	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算（ルック・スルー方式）	—	—	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算（マンドート方式）	—	—	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算（蓋然性方式250%）	—	—	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算（蓋然性方式400%）	—	—	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算（フォールバック方式）	—	—	—	—
経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	—	—	—	—
証券化エクスポージャー	—	—	—	—
証券化(オリジネーターの場合)	—	—	—	—
うち再証券化	—	—	—	—
証券化(オリジネーター以外の場合)	—	—	—	—
うち再証券化	—	—	—	—

五 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

与信相当額の算出に用いる方式

カレント・エクスポージャー方式を採用しております。

派生商品取引及び長期決済期間の取引相手のリスクに関する事項(単体)

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
グロス再構築コストの合計額	284	4,052
一括清算ネットティング契約による与信相当額削減効果(△)	—	—
担保による信用リスク削減効果を勘案する前の与信相当額	183	4,600
差入担保の合計額	10,639	10,988
担保の額	190	240
うち現金および自行預金	190	240
うち適格債券	—	—
うち適格株式	—	—
うち適格投資信託	—	—
担保を勘案した後の与信相当額	10,632	15,348
与信相当額の算出対象となるクレジットデリバティブの想定元本額	—	—
信用リスク削減効果を勘案するためのクレジットデリバティブの想定元本額	—	—

派生商品取引及び長期決済期間の取引相手のリスクに関する事項(連結)

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
グロス再構築コストの合計額	284	4,052
一括清算ネットティング契約による与信相当額削減効果(△)	—	—
担保による信用リスク削減効果を勘案する前の与信相当額	183	4,600
差入担保の合計額	10,639	10,988
担保の額	190	240
うち現金および自行預金	190	240
うち適格債券	—	—
うち適格株式	—	—
うち適格投資信託	—	—
担保を勘案した後の与信相当額	10,632	15,348
与信相当額の算出対象となるクレジットデリバティブの想定元本額	—	—
信用リスク削減効果を勘案するためのクレジットデリバティブの想定元本額	—	—

六 証券化エクスポージャーに関する事項

イ オリジネーターである証券化エクスポージャーに関する事項

該当事項はありません。

ロ 投資家である証券化エクスポージャーに関する次に掲げる事項

(1) 保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

銀行が投資家である場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項(単体)

(単位：百万円)

原資産の種類	2019年度		2020年度	
	エクスポージャーの額	うち再証券化	エクスポージャーの額	うち再証券化
不動産	22,178	—	67,246	—
金銭債権	1,371,676	—	1,614,629	—
クレジットデリバティブ	744	—	67	—
その他	—	—	—	—
合計	1,394,599	—	1,681,943	—

銀行が投資家である場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項(連結)

(単位：百万円)

原資産の種類	2019年度		2020年度	
	エクスポージャーの額	うち再証券化	エクスポージャーの額	うち再証券化
不動産	22,178	—	67,246	—
金銭債権	1,202,787	—	1,393,870	—
クレジットデリバティブ	744	—	67	—
その他	—	—	—	—
合計	1,225,710	—	1,461,185	—

(2) 保有する証券化エクスポージャーの適切な数のリスク・ウェイトの区分ごとの残高及び所要自己資本の額
銀行が投資家である場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーのリスク・ウェイト
区分別残高及び所要自己資本額(単体)

(単位：百万円)

	2019年度				2020年度			
	エクスポージャーの額	うち再証券化	所要自己資本額	うち再証券化	エクスポージャーの額	うち再証券化	所要自己資本額	うち再証券化
100%未満	1,389,211	—	24,384	—	1,665,040	—	27,479	—
100%	2,775	—	111	—	13,789	—	551	—
100%超1,250%未満	2,610	—	156	—	3,110	—	186	—
1,250%	2	—	1	—	3	—	1	—
合計	1,394,599	—	24,652	—	1,681,943	—	28,219	—

1,250%のリスク・ウェイトが適用となる証券化エクスポージャーはリテール向け債権です。

銀行が投資家である場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーのリスク・ウェイト
区分別残高及び所要自己資本額(連結)

(単位：百万円)

	2019年度				2020年度			
	エクスポージャーの額	うち再証券化	所要自己資本額	うち再証券化	エクスポージャーの額	うち再証券化	所要自己資本額	うち再証券化
100%未満	1,220,322	—	23,370	—	1,444,282	—	26,155	—
100%	2,775	—	111	—	13,789	—	551	—
100%超1,250%未満	2,610	—	156	—	3,110	—	186	—
1,250%	2	—	1	—	3	—	1	—
合計	1,225,710	—	23,639	—	1,461,185	—	26,894	—

1,250%のリスク・ウェイトが適用となる証券化エクスポージャーはリテール向け債権です。

七 出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項

出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項(単体)

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
貸借対照表計上額	491	18,372
うち、上場株式等エクスポージャー	—	—
うち、上場株式等エクスポージャー以外	491	18,372
時価	491	18,372
出資等又は株式等エクスポージャーの売却に伴う損益の額	—	—
出資等又は株式等エクスポージャーの償却に伴う損益の額	—	—
貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額	—	—
貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額	—	—

出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項(連結)

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度
連結貸借対照表計上額	1	2
うち、上場株式等エクスポージャー	—	—
うち、上場株式等エクスポージャー以外	1	2
時価	1	2
出資等又は株式等エクスポージャーの売却に伴う損益の額	—	—
出資等又は株式等エクスポージャーの償却に伴う損益の額	—	—
連結貸借対照表で認識され、かつ、連結損益計算書で認識されない評価損益の額	—	—
連結貸借対照表及び連結損益計算書で認識されない評価損益の額	—	—

八 リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項
 リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項

	・単体 (単位：百万円)		・連結 (単位：百万円)	
	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
ルック・スルー方式	—	—	—	—
マンドート方式	—	—	—	—
蓋然性方式 (250%)	—	—	—	—
蓋然性方式 (400%)	—	—	—	—
フォールバック方式	217	203	217	203
合計	217	203	217	203

- (注) 1. ルックスルー方式とは、保有エクスポージャーの裏付けとなる個々の資産の信用リスク・アセットの総額を、当該裏付けとなる資産等を実際に保有する会社、組合その他これらに準ずる事業体の総資産の額で除して得た割合を、当該保有エクスポージャーのリスク・ウェイトとして用いる方式です。
2. マンドート方式とは、裏付けとなる資産等の運用に関する基準に基づき最大となるように算出した保有エクスポージャーの裏付けとなる資産等の信用リスク・アセットの総額を当該裏付けとなる資産等を実際に保有する事業体の総資産の額で除して得た割合を、保有エクスポージャーのリスク・ウェイトとして用いる方式です。
3. 蓋然性方式 (250%) とは、保有エクスポージャーの裏付けとなる資産のリスク・ウェイトの加重平均が250%を下回る蓋然性が高い場合に、250%のリスク・ウェイトを適用する方式です。
4. 蓋然性方式 (400%) とは、保有エクスポージャーの裏付けとなる資産のリスク・ウェイトの加重平均が400%を下回る蓋然性が高い場合に、400%のリスク・ウェイトを適用する方式です。
5. フォールバック方式とは、上記1~4のいずれも適用できない場合に、1250%のリスク・ウェイトを適用する方式です。

九 金利リスクに関する事項

項番	IRRBB 1:金利リスク	・単体 (単位：百万円)				・連結 (単位：百万円)			
		イ		ロ		ハ		ニ	
		当期末	前期末	当期末	前期末	当期末	前期末	当期末	前期末
1	上方パラレルシフト	138	65	△15,946	△13,098	138	65	△15,947	△13,098
2	下方パラレルシフト	14,824	0	15,965	13,087	14,785	0	15,966	13,087
3	スティープ化	0	0			45	0		
4	フラット化	—	—			—	—		
5	短期金利上昇	—	—			—	—		
6	短期金利低下	—	—			—	—		
7	最大値	14,824	65	15,965	13,087	14,785	65	15,966	13,087
		ホ		ヘ		ホ		ヘ	
		当期末		前期末		当期末		前期末	
8	自己資本の額	159,810		140,943		172,624		142,018	

■報酬等に関する開示事項

1. 当行の対象役職員の報酬等に関する組織体制の整備状況に関する事項

(1) 「対象役職員」の範囲

開示の対象となる報酬告示に規定されている「対象役員」及び「対象従業員等」(合わせて「対象役職員」)の範囲については、以下のとおりであります。

①「対象役員」の範囲

対象役員は、当行の取締役及び監査役であります。なお、社外取締役及び社外監査役を除いております。

②「対象従業員等」の範囲

当行では、対象役員以外の当行の役員及び従業員のうち、「高額の報酬等を受ける者」で当行及びその主要な連結子法人等の業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与える者等を「対象従業員等」として、開示の対象としております。

なお、当行の対象役員以外の役員及び従業員で、対象従業員等に該当する者はありません。

(ア)「主要な連結子法人等」の範囲

「主要な連結子法人等」とは、銀行の連結総資産に対する当該子法人等の総資産の割合が2%を超えるもの及びグループ経営に重要な影響を与える連結子法人等であり、現在、該当する法人はありません。

(イ)「高額の報酬等を受ける者」の範囲

「高額の報酬等を受ける者」とは、当行から基準額以上の報酬等を受ける者であります。当行では基準額を97百万円に設定しております。当該基準額は、親会社である楽天(株)の有価証券報告書記載の常勤取締役の報酬額の平均をもとに設定しております。

(ウ)「グループの業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与える者」の範囲

「グループの業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与える者」とは、その者が通常行う取引や管理する事項が、当行、当行グループ等の業務の運営に相当程度の影響を与え、または取引等に損失が発生することにより財産の状況に重要な影響を与える者であります。

(2) 対象役職員の報酬等の決定について

対象役員の報酬等の決定について

当行では、株主総会において役員報酬の総額(上限額)を決定しております。株主総会で決議された取締役の報酬の個人別の配分については、さらに取締役会決議に基づき、代表取締役社長に一任されております。また、監査役の報酬の個人別の配分については、監査役の協議により決定されております。

(3) 報酬委員会等の構成員に対して支払われた報酬等の総額及び報酬委員会等の会議の開催回数

	開催回数 (令和2年4月～令和3年3月)
取締役会(楽天銀行)	1回

(注) 報酬等の総額については、報酬委員会等の職務執行に係る対価に相当する部分のみを切り離して算出することができないため、報酬等の総額は記載していません。

2. 当行の対象役職員の報酬等の体系の設計及び運用の適切性の評価に関する事項

報酬等に関する方針について

「対象役員」の報酬等に関する方針

当行は、銀行としての社会的責任と公共的役割を自覚し、高い自己規律に基づく健全かつ効率的な業務運営を心がけることにより、社会からの揺るぎない信頼と存在価値の確立に努めるという当行の経営理念に沿って役員報酬制度を設計しております。基本報酬は役員としての職務内容・人物評価・業務実績等を勘案して決定しております。役員の報酬は、株主総会において決議された役員報酬限度額の範囲内で決定しており、個人別の配分については取締役会決議に基づき代表取締役に一任されております。なお、監査役の報酬については、株主総会において決議された役員報酬限度額の範囲内で、監査役の協議により決定しております。

3. 当行の対象役職員の報酬等の体系とリスク管理の整合性ならびに報酬等と業績の連動に関する事項

対象役員の報酬等の決定に当たっては、株主総会で役員全体の報酬総額が決議され、決定される仕組みになっております。

4. 当行の対象役職員の報酬等の種類、支払総額及び支払方法に関する事項

対象役員の報酬等の総額(自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)

区分	人数	報酬等の総額 (百万円)	固定報酬の総額				変動報酬の総額	報酬			退職慰労金	その他
			基本報酬	株式報酬型 ストック オプション	その他	基本報酬		賞与	その他			
対象役員 (除く社外役員)	3	87	87	87	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 対象となる職員はおりません。

5. 当行の対象役職員の報酬等の体系に関し、その他参考となるべき事項

特段、前項までに掲げたもののほか、該当する事項はございません。

財務諸表に係る確認書謄本

「財務諸表の正確性、内部監査の有効性についての経営者責任の明確化について(要請)」(平成17年10月7日付金監第2835号)に基づく、当行の財務諸表の適正性、及び財務諸表作成に係る内部監査の有効性に関する代表者の確認書は以下のとおりです。

確 認 書

令和3年7月26日

楽天銀行株式会社

代表取締役社長 永井 啓之

1. 私は、当行の令和2年4月1日から令和3年3月31日までの第22期事業年度に係る財務諸表及び連結財務諸表(以下、「財務諸表等」という)に記載した内容が、「銀行法施行規則」等に準拠して、全ての重要な点において適正に表示されていることを確認いたしました。
2. 私は、財務諸表等を適正に作成するため、以下の内部統制体制が整備され機能していることを確認いたしました。
 - (1) 財務諸表等の作成に当たり、業務分掌と責任部署が明確化されており、各責任部署において適切な業務体制が構築されていること。
 - (2) 内部監査部門が内部管理体制の適切性・有効性を検証し、取締役会等に適切に報告する体制が構築されていること。
 - (3) 重要な経営情報が取締役会等へ適切に付議・報告されていること。

以 上

当行の概要

■概要

名称	楽天銀行株式会社 (英名: Rakuten Bank, Ltd.)
本社所在地	東京都港区港南二丁目16番5号 NBF品川タワー
設立	2000年1月14日
開業	2001年7月23日
資本金	259億54百万円
従業員数	779人 (2021年3月末) (正社員、嘱託及び契約社員、他社からの出向者を含み当行から他社への出向者を除く就業人数)

■営業所の名称及び所在地 (2021年6月30日現在)

本店所在地	東京都港区港南二丁目16番5号 NBF品川タワー
支店所在地	東京都港区港南二丁目16番5号 NBF品川タワー
支店名	ジャズ支店、ロック支店、サンバ支店、ワルツ支店、オペラ支店、タンゴ支店、サルサ支店、ダンス支店、リズム支店、ビート支店、マーチ支店、ピアノ支店、ドラム支店、チェロ支店、ソナタ支店、エンカ支店、テクノ支店、ホルン支店、アルト支店、フーガ支店、アロハ支店、ハーブ支店、ラテン支店、タクト支店、アリア支店、ギター支店、ボレロ支店、マンボ支店、カノン支店、エレキ支店、ハウス支店、ロンド支店、ビオラ支店、ひかり支店、第一営業支店、第二営業支店、第三営業支店、第四営業支店、売上入金第一支店、売上入金第二支店、OKB支店、本店、法人第一支店、法人第二支店、法人第三支店、法人第四支店、法人第五支店、法人第六支店、法人第八支店、法人第九支店、法人第十支店、楽天証券支店、楽天第一支店、楽天第二支店、楽天第三支店、楽天第四支店、楽天市場支店、楽天支店、法人第十七支店、楽天証券第二支店、法人第十九支店、法人第二十支店
出張所名 (所在地)	福岡オフィス出張所 (福岡県福岡市博多区博多駅東二丁目6番1号 九勤筑紫通ビル) 福岡オフィス第二出張所 (福岡県福岡市博多区博多駅東二丁目10番35号 博多プライムイースト)

■当行を所属銀行とする銀行代理業者

名称 楽天カード株式会社、楽天証券株式会社、楽天生命保険株式会社、楽天損害保険株式会社、株式会社大垣共立銀行
銀行代理業を営む営業所の名称 楽天カード株式会社、楽天証券株式会社、楽天生命保険株式会社、楽天損害保険株式会社、株式会社大垣共立銀行

■役員一覧 (2021年6月30日現在)

地位	氏名	担当又は主な兼職状況
取締役会長	穂坂 雅之	楽天グループ株式会社 代表取締役副会長執行役員 楽天カード株式会社 代表取締役社長 楽天証券株式会社 取締役会長 楽天生命保険株式会社 取締役 楽天損害保険株式会社 取締役会長 楽天ペイメント株式会社 取締役会長 Rakuten Card USA, Inc. President
代表取締役社長 最高執行役員	永井 啓之	
取締役	鹿戸 丈夫	
取締役	田所 正夫	
取締役	海老沼 英次	田辺総合法律事務所 パートナー シンバイオ製薬株式会社 社外取締役 東光電気工事株式会社 監査役
常勤監査役	齋藤 哲哉	税理士法人合同経営会計事務所 顧問 楽天信託株式会社 監査役
監査役	茅野 倫生	日本年金機構 システムアドバイザー
監査役	梶本 繁昌	アイビーシー株式会社 社外取締役 沼尻産業株式会社 社外取締役 システムズ・デザイン株式会社 社外取締役 株式会社Pro-SPIRE 社外取締役

■株主一覧

氏名又は名称	所有株式数	持株比率
楽天カード株式会社	2,349,484株	100%
計 (1名)	2,349,484株	100%

(2021年6月30日現在)

■主な業務の内容

- ・当行の業務は、(1) 決済サービス業務、(2) 金融サービス販売業務、(3) 運用調達業務、(4) その他の業務の4つの業務に分類できます。

(1) 決済サービス業務

- ・パソコン又は携帯端末によるインターネットを経由した送金及び振込にかかる為替業務(ウェブ決済)の提供

(2) 金融サービス販売業務

- ・外国為替証拠金取引等の金融商品の販売、各種企業との提携によるクレジット機能付キャッシュカードの発行及び金融商品仲介

(3) 運用調達業務

- ・普通預金、定期預金、外貨預金の提供
- ・インターネット銀行の特徴を踏まえた流動性に十分配慮した運用と、ALM(資産負債総合管理)の観点から金利感応度、資金流動性、市場流動性等のリスクマネジメントに十分留意した運営

(4) その他の業務

● 広告業

- ・銀行法第10条第2項「その他の銀行業に付随する業務」に該当する当行ホームページ及びメールマガジン等への広告掲載による広告業を行っております。

● 前払式支払手段の発行及び管理業

- ・資金決済法第7条に規定する第三者型前払式支払手段の発行にかかる登録を行い、プリペイドカードの発行及び管理業務を行っております。

● 信託契約代理業

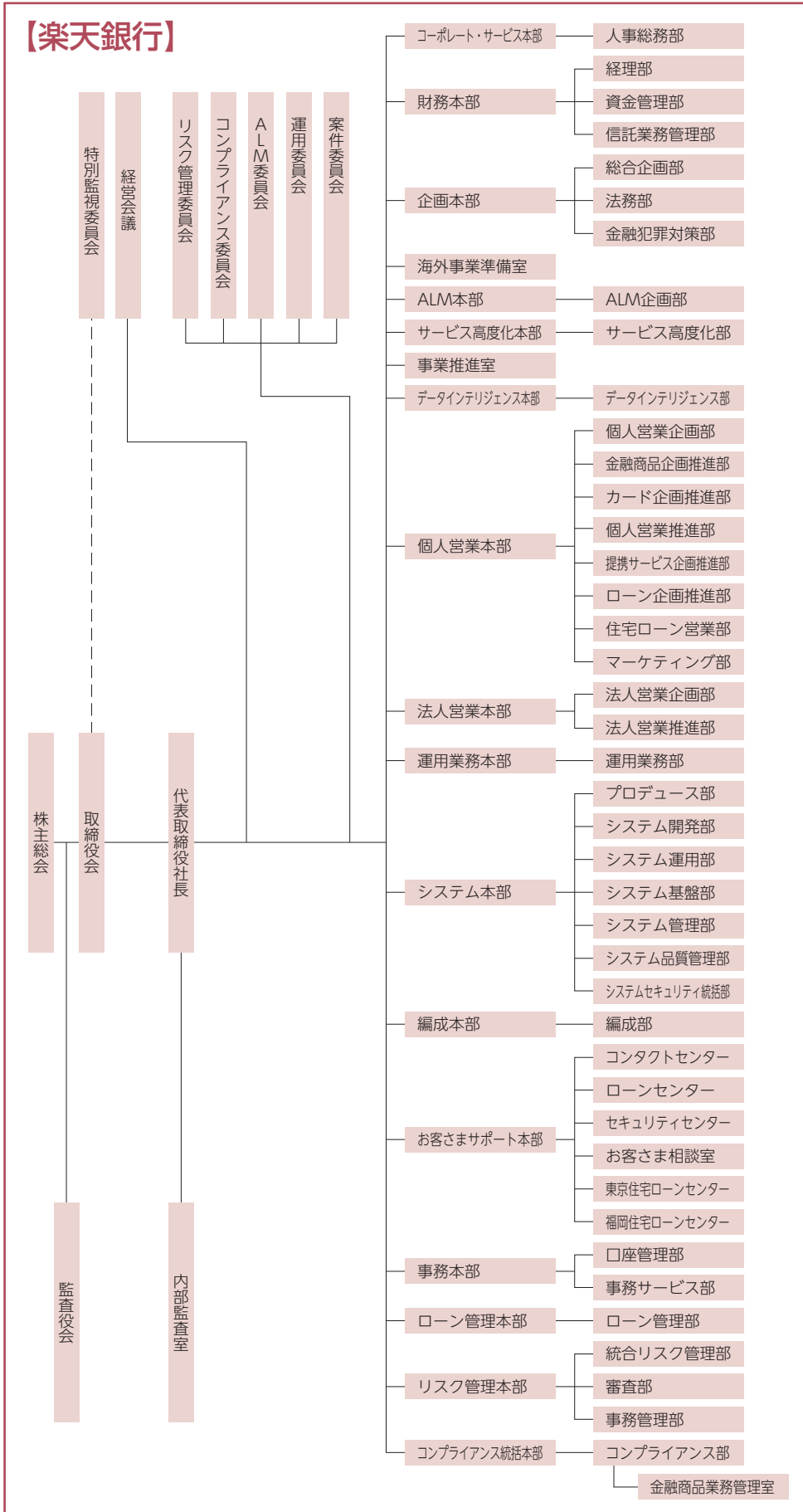
- ・当行の連結子会社である楽天信託株式会社を所属信託会社として、信託業法第68条第1項の規定に基づく信託契約代理店登録を行い、信託契約代理業務を行っております。

● 電子決済等代行業

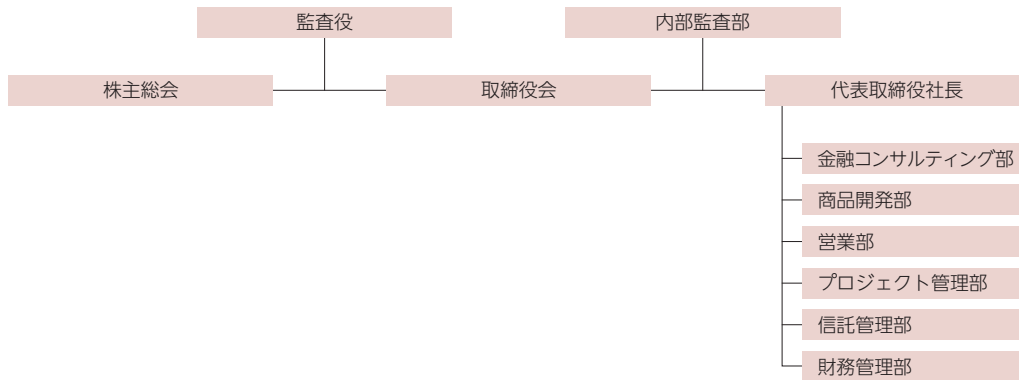
- ・銀行法第52条の規定に基づく電子決済等代行業者登録を行い、電子決済等代行業務を行っております。

組織図

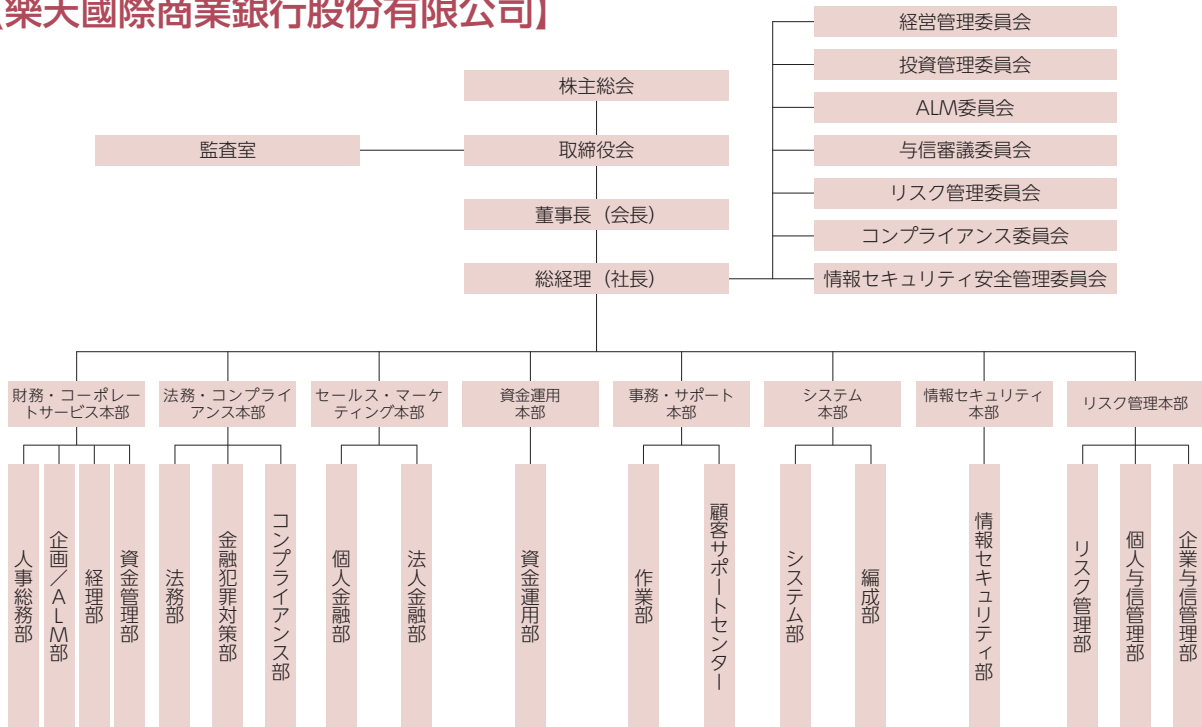
(2021年6月30日現在)



【楽天信託】



【楽天国際商業銀行股份有限公司】



当行グループの概要

■グループ会社

	連結子会社
名称	楽天信託株式会社
設立	2005年8月1日
住所	東京都港区
資本金	259.8百万円
当行議決権比率	100%

(2021年6月30日現在)

■主な業務の内容

信託業務

	連結子会社
名称	楽天国際商業銀行股份有限公司
設立	2020年5月18日
住所	台北市中山区
資本金	100億台湾ドル
当行議決権比率	50%

(2021年6月30日現在)

■主な業務の内容

決済サービス業務

- ・パソコン又は携帯端末によるインターネットを經由した送金及び振込にかかる為替業務(ウェブ決済)の提供

運用調達業務

- ・普通預金、定期預金の提供
- ・インターネット銀行の特徴を踏まえた流動性に十分配慮した運用と、ALM(資産負債総合管理)の観点から金利感応度、資金流動性、市場流動性等のリスクマネジメントに十分留意した運営

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組の状況

■中小企業の経営支援に関する取組み方針

当行では、「中小企業者等に対する金融の円滑化を図るための臨時措置に関する法律」の終了後も、以下の基本方針に基づき、お客さまからのご返済のご相談・ご返済条件の変更等のお申込みを受付けております。

1. 基本的考え方

お客さまに対して資金を円滑に供給していくことが、当行の最も重要な社会的役割の一つと認識しており、業務の健全かつ適切な運営の確保に留意しつつ、金融仲介機能を積極的に発揮してまいります。

2. 取組方針

- (1) 事業者向け融資をご利用されているお客さまからの新規のお借入やお借入条件の変更等のお申込みに対して、適切な審査を行うように努めます。
- (2) お客さまから経営改善支援についてのご相談があった場合には、ご相談に至った背景や事情、事業の特性や状況について把握し、経営改善に向けた取組みに関する支援を適切に行うよう努めます。
- (3) お客さまからのお借入条件の変更等のお申込みや経営改善支援のご相談について、他の金融機関や信用保証協会、中小企業再生支援協議会等の外部機関が関係している場合には、関係者と緊密な連携を図るよう努めます。
- (4) お客さまからのお申込みやご相談に対するお客さまへのご説明を、適切かつ十分に行うように努めます。
- (5) お客さまからのお借入やお借入条件の変更等のお申込みに対して、やむを得ず謝絶する場合には、可能な限り具体的かつ丁寧にご説明するように努めます。
- (6) お客さまからのご相談やご要望および苦情への対応を適切かつ十分に行うように努めます。

■中小企業の経営支援に関する態勢整備の状況

1. 取組み態勢の概要

- (1) 取締役会は、「信用供与先の債権管理等に係る規程」に基づき、金融円滑化に係る重要事項を決議いたします。
- (2) 社長は、経営会議での協議を踏まえ、金融円滑化の強化を行うための態勢を整備いたします。
- (3) 金融円滑化管理担当部門を設置し、金融円滑化管理責任者を任命しております。また、金融円滑化管理責任者は、当行の金融円滑化取組み態勢の整備および確立に向けて、具体的な方策を検討いたします。

2. 対応措置の状況を適切に把握するための態勢整備の概要

当行は、お客さまから債務の弁済に係る負担の軽減の申込みがあった場合における対応措置を適切に対応・把握するために以下の取組みを実施してまいります。

(1) 金融円滑化管理担当部門の設置と関係部門との連携

金融円滑化管理担当部門としてリスク管理本部を任命しております。リスク管理本部は、コンプライアンス統括本部等の関係部署と連携し、事業者向け融資、住宅ローンの円滑化に関して、お客さまからの各種お申込みやご相談等にお応えするための体制構築、周知徹底、指導・監督を行います。

(2) 金融円滑化管理責任者の任命

リスク管理本部長を金融円滑化管理責任者として任命しております。

(3) コンプライアンス体制

お客さまからのご相談やご要望および苦情への対応が適切に行われているかの管理についてはコンプライアンス統括本部が行い、重要事項についてはコンプライアンス委員会に報告し、または同委員会にて協議を行います。

(4) お客さまからのお借入条件の変更等のお申込みへの迅速な対応および記録の保存

お客さまからのお借入条件の変更等のお申込みやご相談に迅速に対応するための担当部署を設置し迅速に対応すると共に、お申込みやご相談の内容は所定の用紙に記録し保存いたします。

3. 対応措置に係る苦情相談を適切に行うための体制の概要

(1) お借入条件の変更等のお申込みおよびご相談

当行はお客さまからのご返済の軽減などお借入条件の変更等のお申込みやご相談を受付ける専用窓口を設置しております。

(2) 事業者向け融資に関する苦情相談窓口

当行はお客さまからのご利用中の事業者向け融資に関する苦情を受付ける専用窓口を設置しております。

お問い合わせ窓口	法人営業本部
電話番号	0570-03-0036 または 03-6832-2275
受付時間	平日9:00~17:00 ※年末年始を除く

■中小企業の経営支援に関する取組状況

貸付条件の変更等の実施状況（2021年3月31日時点）

		2021年3月末
		件数
貸付の条件の変更等の申込を受けた貸付債権		0
	うち、「実行」に係る貸付債権	0
	うち、「謝絶」に係る貸付債権	0
	うち、「取下げ」に係る貸付債権	0
	うち、「審査中」に係る貸付債権	0

■地域の活性化に関する取組の状況

当行はインターネット銀行という特性から地域を限定することなく経済の活性化に資しております。

開示規定項目一覧表

単体情報(銀行法施行規則第19条の2)

銀行の概況及び組織に関する事項

経営の組織	本誌24
株主一覧	63
役員一覧	63
会計監査人の氏名又は名称	本誌26
営業所の名称及び所在地	63
当行を所属銀行とする銀行代理業者	63

主な業務の内容

主な業務に関する事項

事業の概況	14
-------	----

主要な経営指標

経常収益	14
経常利益又は経常損失	14
当期純利益又は当期純損失	14
資本金及び発行済株式の総数	14
純資産額	14
総資産額	14
預金残高	14
貸出金残高	14
有価証券残高	14
単体自己資本比率	14
配当性向	14
従業員数	14

主要な業務の状況を示す指標

業務粗利益、業務粗利益率、業務純益、実質業務純益、コア業務純益及びコア業務純益(投資信託解約損益を除く。)	21
資金運用収支	21
役員取引等収支	21
その他業務収支	21
資金運用・資金調達勘定の平均残高、利息、利回り	21
総資金利鞘	23
受取利息・支払利息の分析	22
総資産経常利益率	23
資本経常利益率	23
総資産当期純利益率	23
資本当期純利益率	23

(預金に関する指標)

預金科目別残高	24
定期預金残存期間別残高	24

(貸出金等に関する指標)

貸出金科目別残高	25
貸出金残存期間別残高	25
貸出金担保別残高、支払承諾見返の担保別残高	26~27
貸出金使途別内訳	26
貸出金業種別残高及び貸出金の総額に占める割合	26
中小企業等に対する貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合	26
特定海外債権残高	27
預貸率	27

(有価証券に関する指標)

商品有価証券平均残高	34
有価証券残存期間別残高	33
有価証券残高	33

預証率	34
-----	----

業務の運営に関する事項

リスク管理態勢	本誌27~29
法令遵守体制	本誌30
金融ADR	本誌30
中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組の状況	68~69

財産の状況

貸借対照表	15
損益計算書	16
株主資本等変動計算書	17
破綻先債権額	35
延滞債権額	35
3カ月以上延滞債権額	35
貸出条件緩和債権額	35
自己資本の充実の状況	36~59
有価証券の時価等情報	28~30
金銭の信託、デリバティブ取引情報	30~32
貸倒引当金期末残高及び期中増減額	27
貸出金償却額	27
会計監査人の監査	15
報酬等に関する開示事項	60~61

連結情報(銀行法施行規則第19条の3)

主な業務の内容及び組織の構成	64~67
子会社等に関する状況	67
事業の概況	2~3

主要な経営指標

連結経常収益	2
連結経常利益又は連結経常損失	2
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失	2
連結包括利益	2
連結純資産額	2
連結総資産額	2
連結自己資本比率	2
連結貸借対照表	4
連結損益計算書	5
連結株主資本等変動計算書	6
破綻先債権額	13
延滞債権額	13
3カ月以上延滞債権額	13
貸出条件緩和債権額	13
自己資本の充実の状況	36~59
セグメント情報	12
会計監査人の監査	4
報酬等に関する開示事項	60~61

金融機能の再生のための緊急措置に関する法律施行規則第5条及び第6条

正常債権、要管理債権、危険債権、破産更生債権及びこれらに準ずる債権	13、15
-----------------------------------	-------

決算公告(電子公告)

銀行法第20条に基づいて、下記の決算公告を当行定款に定めるホームページに掲載しています。

<https://www.rakuten-bank.co.jp/>



「会社情報」をクリック



「ディスクロージャー」をクリック



「公告」をクリック



※ホームページのイメージは、2021年7月現在のもの

本誌は、銀行法第21条に基づいて作成したディスクロージャー資料です。

本ディスクロージャー誌には、将来の予測に関する記述が含まれております。この将来予測に関する記述は経営環境の変化などにより変動する可能性があることにつき、ご注意ください。

Rakuten
楽天銀行

<https://www.rakuten-bank.co.jp>

〒108-0075 東京都港区港南2-16-5 NBF品川タワー